



ドキュメント一括操作ツール 説明書

ArcSuite 4.0

はじめに

このたびは富士フイルムビジネスイノベーションのArcSuite®をご利用いただき、まことにありがとうございます。

一般に、企業活動では、各業務に関する情報はさまざまな形態のドキュメントとして存在しています。ここでいうドキュメントとは、紙に書かれた文書だけを示す狭義のものではありません。紙はもちろんのこと、ホワイトボードに書かれた文字や図表、プロジェクターやテレビに映し出された映像などを含む広義なものを指します。

ドキュメントは一般に、ひとりの手で作成されるものではなく、複数の人の意見交換や討議を経て作成されます。単純な作業や複雑な計算はコンピューターに委ねられ、あらゆる分野でさまざまなソリューションが展開されていますが、ドキュメントの作成では一般に人が中心なのです。

ArcSuiteは、「ドキュメント」に着目して「人」と「人」をつなぐ、「ドキュメント指向」のソリューション・パッケージです。ArcSuiteをご利用いただくことによって、さまざまなコンピューターシステムを統合したうえでのドキュメントの共有や管理が可能になります。

お使いの商品構成によって、次の機能が標準で提供されないことがあります。

コラボスペース、ドキュメントレビューオプション、ワークフロー、分類ビュー、関連文書検索サービス、原本性保証オプション、キャプチャリングサービス、統合検索サービス、オンラインバックアップオプション、ドキュメント一括操作ツール、連携フォルダ for DocuWorks、連携オプション for Working Folder

本書の内容は、Microsoft Windows Operating System、およびWebブラウザの基本的な知識や操作方法を習得されているかたを対象として記述しています。

Microsoft、Excel、およびWindowsは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Safari is a trademark of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.

Xerox、Xeroxロゴ、およびFuji Xerox ロゴは、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。

その他の社名または商品名などは、各社の登録商標または商標です。

Microsoft Corporation の許可を得て画面写真を使用しています。

- ・ 本書の編集、変更、または無断での転載はしないでください。
- ・ 本書に記載されている内容は、将来予告なしに変更されることがあります。
- ・ 本書に記載されている画面やイラストは一例です。ご使用の機種やソフトウェア、OS のバージョンによって異なることがあります。

FUJIFILM、およびFUJIFILM ロゴは、富士フイルム株式会社の登録商標または商標です。

ArcSuite、DocuWorks、および Working Folderは、富士フイルムビジネスイノベーション株式会社の登録商標または商標です。

著作権について

本ソフトウェア、およびバックアップのために複製されたソフトウェアに関する著作権等を含む一切の無体財産権は、弊社および弊社への供給者に帰属します。

(c) 2002-2021 FUJIFILM Business Innovation Corp.

マニュアル体系

ArcSuiteには、次のマニュアルおよびヘルプがあります。

マニュアルは、PDFファイルまたはヘルプの形式で提供しています。

主なマニュアルは、『ポータル画面のヘルプ』から参照できます。『ポータル画面のヘルプ』は、Webブラウザの操作画面にある【ヘルプ】から表示できます。

補足 お使いの商品構成によっては、提供されない機能の説明がマニュアルに含まれることがあります。

■ 管理者ユーザー向け

名称	概要
セットアップガイド	本製品全体のセットアップ方法について説明しています。
システム管理者ガイド	リソース管理サービスの概要、機能、管理操作を行うコマンドについて説明しています。また、本製品の運用に必要な管理作業について説明しています。
ドキュメント管理サービス管理者ガイド	ドキュメント管理サービスの概要、機能、および管理操作を行うコマンドについて説明しています。
ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版のヘルプ	サーバーで行うドキュメント管理サービスの管理操作について説明しています。
ドキュメント管理サービス管理アプリケーション Web版のヘルプ	クライアントPCで行うドキュメント管理サービスの管理操作について説明しています。
オフラインバックアップ・リストア運用ガイド	オフラインバックアップ機能の操作、およびリストア機能の操作について説明しています。
リソース管理アプリケーションのヘルプ	ユーザー、グループ、ユーザーロールの追加、およびライセンスの編集、検索について説明しています。
ログインサーバー管理アプリケーションのヘルプ	ログインサーバーでの認証モードの設定について説明しています。
メッセージ通知管理アプリケーションのヘルプ	メッセージ通知サーバーの設定、メッセージのプール管理、メッセージテンプレートの設定について説明しています。
ポータル管理アプリケーションのヘルプ	ユーザープロフィールに表示する項目の設定、お知らせの設定について説明しています。
ドキュメントスペース管理アプリケーションのヘルプ	属性テンプレートや表示する属性の設定、表示するボタンの設定、およびシステム環境の設定について説明しています。
表示アプリケーション管理ツールのヘルプ	表示アプリケーションのテンプレート、システム環境の設定について説明しています。
ログ管理アプリケーションのヘルプ	ログを表示する機能、ログを取得する機能、および保守情報を一括で取得する機能について説明しています。

名称	概要
監視ツールのヘルプ	ArcSuiteのコンポーネントにアクセスしているユーザー、データベースの状態、およびセッションの状態を監視する機能について説明しています。
ドキュメントスペースドキュメント操作URLリファレンスガイド	ドキュメントスペースの機能にURLを使用して接続する機能について説明しています。
オンラインバックアップ・リストア運用ガイド	オンラインバックアップ機能の操作、およびリストア機能の操作について説明しています。
e-文書法対応 概要説明書	e-文書法対応の概要および原本性保証オプションの機能について説明しています。
コラボスペース管理アプリケーションのヘルプ	コラボスペースのメールの設定、ログの設定、およびタスクやメッセージの用語をカスタマイズする設定について説明しています。
ワークフロー管理アプリケーションのヘルプ	ワークフロー定義または起動テンプレートの作成者および公開者の設定、ログの設定、外部コマンドの設定について説明しています。
キャプチャリング管理アプリケーションのヘルプ	キャプチャリングサービスの監視キューに対する操作について説明しています。
統合検索サービス管理アプリケーションのヘルプ	統合検索サービスのリソースの設定、収集スケジュールの設定、およびシステム環境の設定について説明しています。
コラボスペースタスク操作URLリファレンスガイド	コラボスペースの機能にURLを使用して接続する機能について説明しています。
ワークフロー操作URLリファレンスガイド	ワークフローの機能にURLを使用して接続する機能について説明しています。
Webサービスインターフェイスリファレンスガイド	ArcSuiteの機能にSOAPを使用して接続するAPIについて説明しています。
ドキュメント管理サービスSDKリファレンスガイド	ドキュメント管理サービスのオブジェクトを処理するコマンドについて説明しています。
コラボスペースInterface Toolkitリファレンスガイド	コラボスペースのオブジェクトを処理するコマンドについて説明しています。
ワークフロー Interface Toolkitリファレンスガイド	ワークフローのオブジェクトを処理するコマンドについて説明しています。

■ クライアントユーザー向け

名称	概要
ポータル画面のヘルプ	ポータル画面で、お気に入りの編集、ユーザープロフィールを変更する操作について説明しています。 Webブラウザの操作画面にある【ヘルプ】から参照してください。
アドレス帳のヘルプ	アドレス帳で、ユーザー、グループ、ユーザーロール、およびタスクを検索する操作について説明しています。
ドキュメントスペースのヘルプ	ドキュメントスペースで、登録、属性の変更、検索などのドキュメントを管理する機能の操作について説明しています。
表示アプリケーションのヘルプ	表示アプリケーションで、ブラウザーイメージ変換された画像を編集する操作、およびユーザー設定について説明しています。
検索条件式のヘルプ	ドキュメントスペースの詳細検索で、全文検索または属性検索の条件式をXMLで指定するときの記述方法について説明しています。

名称	概要
簡易操作のヘルプ	簡易操作画面でドキュメントを管理する機能の操作、および操作画面の設定方法について説明しています。
コラボスペースのヘルプ	コラボスペースで、タスクの作成、メッセージの登録、および検索などの操作について説明しています。
ワークフローのヘルプ	ワークフローで、ワークフロー定義の作成、公開および起動する操作、作業を実行する操作について説明しています。
ドキュメント一括操作ツール説明書（本書）	Microsoft Excelを使って、ドキュメント管理サービスのオブジェクトを処理する操作について説明しています。
デスクトップクライアント セットアップガイド	デスクトップクライアントのセットアップ方法について説明しています。
デスクトップクライアント 操作説明書	デスクトップクライアントで、ドキュメント管理サービスのフォルダーやドキュメントにアクセスする操作方法について説明しています。
連携フォルダ for DocuWorks セットアップガイド	連携フォルダ for DocuWorksのセットアップ方法について説明しています。
連携フォルダ for DocuWorksのヘルプ（*1）	DocuWorks Deskで、ArcSuiteに登録されているドキュメントを操作する方法について説明しています。

* 1: 連携フォルダ for DocuWorks をインストールした DocuWorks Desk のヘルプから参照してください。

本書の使い方

本書は、ドキュメント一括操作ツールの操作方法について説明しています。ドキュメント一括操作ツールを使用するときに、本書をお読みください。

■ 本書の構成

本書は、次の章から構成されています。

[1 はじめに](#)

本マニュアルの位置付けについて説明しています。

[2 環境設定](#)

ドキュメント一括操作ツールのインストール方法、各設定シートについて説明しています。

[3 操作方法](#)

ドキュメント一括操作ツールの操作方法、画面UI、機能について説明しています。

[4 出力ファイル](#)

ドキュメント一括操作ツールの出力ファイルについて説明しています。

[5 エラーメッセージ](#)

ドキュメント一括操作ツールのエラーメッセージについて説明しています。

[6 インターフェイス](#)

ドキュメント一括操作ツールのインターフェイスについて説明しています。

[7 機能上の制限事項](#)

ドキュメント一括操作ツールの機能上の制限事項について説明しています。

■ 本書の表記

・ 本書では、次の記号を使用しています。

< > キー	キーボードのキーを表します。 例：<Enter>キーを押します。
[]	画面に表示されるメニュー、ボタン、項目を表します。 例：[新規作成] をクリックします。
[]	同一マニュアル内の参照箇所を表します。 また、強調する用語やメッセージも表します。 例：「1 概要」 「名前が指定されていません。」と表示されます。
『 』	参照するマニュアルの名前を表します。 例：『システム管理者ガイド』
{ }	ユーザー名やサーバー名など、操作時に変わる値を表します。 例：[{ユーザー名}] をクリックします。
>	メニューやWebページの階層を表します。 例：[システムとセキュリティ] > [管理ツール]
注 記	一般的な注意事項を表します。

補 足	機能や操作に関する補足説明を表します。
参 照	参照する事項があることを表します。
<u> </u>	参照先タイトルやページへのリンクがあることを表します。 例： 「1 概要」(P.6)

- ・ Microsoft Windows Operating System を「Windows」と表記しています。
- ・ パーソナルコンピュータを「PC」と表記しています。
- ・ お使いの環境によって、マニュアルに記載の画面と実際の画面が異なることがあります。
- ・ 特に表記がない場合の製品のバージョン番号は「4.0」です。

目次

1 はじめに

1.1 このマニュアルについて	11
1.2 システムの概要	12

2 環境設定

2.1 eXTool のインストール	15
Excel のセキュリティレベルの設定	15
eXTool のインストール手順	16
2.2 設定シート	19
2.2.1 Master シート	19
2.2.2 RMaster シート	22
2.2.3 DMaster シート	23
2.2.4 BMaster シート	24
2.2.5 UMaster シート	26
2.2.6 Cabinet シート	27
2.2.7 DebugMode シート	31
2.3 バージョンアップ	32
2.4 eXTool のアンインストール	33

3 操作方法

3.1 eXTool の起動	36
3.2 入力データシート	37
3.3 画面 UI	39
3.3.1 検索条件設定画面	39
[リスト作成]	39
[開始]	40
[キャンセル]	40
3.3.2 リファレンス検索条件設定画面	41
[開始]	41
[キャンセル]	41
3.3.3 データ転記・移動画面	42
[開始]	43
[キャンセル]	43
3.3.4 バッチ登録画面	44
[開始]	45
[キャンセル]	45
3.3.5 属性登録画面	46
[開始]	46
[キャンセル]	46
3.3.6 IFTK ユーザー・パスワード指定画面	47
3.4 属性登録機能	48
3.4.1 ユニークチェック	48
3.4.2 登録	49
検索キー属性を更新する場合	49
3.4.3 版管理開始	50
3.5 属性検索機能	51

3.6	ファイルオープン機能	53
3.7	ハイパーリンク作成機能	54
3.8	ハイパーリンク解除機能	55
3.9	リスト作成機能	56
3.10	リファレンス作成機能	57
3.10.1	ユニークチェック	57
3.10.2	作成	57
3.11	バッチ登録機能	58
3.12	データ転記・移動機能	61
3.12.1	ユニークチェック	61
3.12.2	転記・移動	61
3.13	チェック機能	62
3.13.1	ユニークチェック	62
3.13.2	入庫チェック	62
3.13.3	出図チェック	63
3.14	英名⇔和名変換機能	64
3.15	eXTool の終了	65
4	出力ファイル	
4.1	作業ファイル	67
4.1.1	作業ファイルの作成先	67
4.1.2	ファイル名のルール	67
4.2	ログファイル	68
5	エラーメッセージ	
5.1	メッセージ一覧	70
6	インターフェイス	
6.1	マクロインターフェイス一覧	74
6.2	マクロ設定方法	75
6.2.1	リボンのグループに登録する	75
6.2.2	クイックアクセスツールバーに登録する	76
7	機能上の制限事項	
7.1	eXTool に関する制限事項	78

1 はじめに

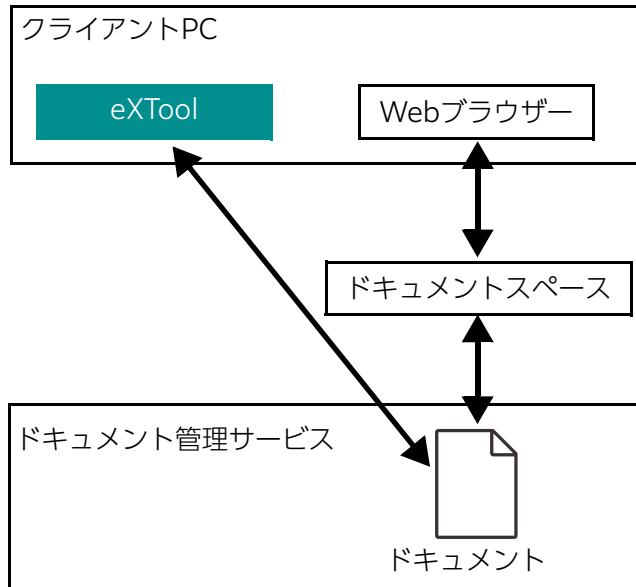
1.1 このマニュアルについて

本マニュアルは、「ドキュメント一括操作ツール（以降、「eXTool」と表記します）」の操作マニュアルです。
eXToolの操作方法について説明しています。

1.2 システムの概要

eXToolは、マイクロソフト社の表計算アプリケーション（Microsoft Excel）を通して、ArcSuiteのドキュメント管理サービスにアクセスするソフトウェアツールです。

ArcSuiteは、ドキュメントスペースを使用してドキュメントの登録、属性の更新などの操作ができます。eXToolをインストールした場合、eXToolをインストールしたクライアントPCのExcelから、ArcSuiteのドキュメントにアクセスできます。



注記 eXTool を使用するには、ドキュメント管理サービス SDK および eXTool のライセンスの取得が必要です。

eXToolには次の機能があります。

No	機能名	説明している節	機能概要
1	属性登録機能	3.4	シート上のデータをもとにドキュメント管理サービス上の該当データの属性を更新します。
2	属性検索機能	3.5	シート上のデータをもとにドキュメント管理サービス上の該当データの属性を検索します。
3	ファイルオープン機能	3.6	eXToolへの入力データとして、ローカルディスク上の任意のディレクトリーにあるカンマ区切りのファイル（拡張子：csv,txt）を開きます。
4	ハイパーリンク作成機能	3.7	シート上のsystem:name列の値をローカルディスク上のファイル名とみなし、シートと同じディレクトリーにそのファイルが存在した場合はリンクを作成します。
5	ハイパーリンク解除機能	3.8	作成したハイパーリンクを解除します。
6	リスト作成機能	3.9	ローカルディスク上の任意のディレクトリーの配下のファイル名をシート上のsystem:name列にリスト展開します。
7	リファレンス作成機能	3.10	シート上のデータをもとにドキュメント管理サービス上の該当データのリファレンスを作成します。
8	バッチ登録機能	3.11	シート上のデータをもとにドキュメント管理サービス上にデータを登録します。
9	データ転記・移動機能	3.12	シート上のデータをもとにドキュメント管理サービス上の該当データの転記および移動（ドキュメント管理サービスまたはローカルディスクへ）を行います。

No	機能名	説明している節	機能概要
10	チェック機能	3.13	シート上のデータをもとにドキュメント管理サービス上の該当データの存在確認および版ずれチェックを行います。
11	英名⇔和名変換機能	3.14	シート上の属性名を英名→和名または和名→英名に変換します。



2 環境設定

2.1 eXTool のインストール

eXToolのインストールについて説明します。

インストールをする前に、次の準備をしておきます。

- ・ eXTool をインストールするクライアント PC に、ドキュメント管理サービス SDK をインストールする。
- ・ eXTool のライセンスシリアル番号を取得する。

注記 インストール開始前に、Setup.xls と同じディレクトリーに存在する「license.txt」を、別途発行されたライセンスシリアル番号の内容に更新する必要があります。このファイルによってライセンスチェックが行われ、ライセンスシリアル番号が不正な場合はインストールが中止されます。

補足 Windows にサインインするユーザーごとに eXTool を利用する場合は、Excel の仕様によりユーザーごとのセットアップが必要です。

参照 ・ 古いバージョンがインストールされているときは、[\[2.3 バージョンアップ\] \(P.32\)](#) を参照してください。
・ ドキュメント管理サービス SDK のインストールについては、『ドキュメント管理サービス SDK リファレンスガイド』を参照してください。

Excel のセキュリティレベルの設定

次の手順でExcelのセキュリティレベルを設定してください。

1. Excel の [ファイル] タブから [オプション] を選択します。
[Excel のオプション] 画面が表示されます。
2. 左側のメニューから [セキュリティセンター] を選択し、[セキュリティセンターの設定] をクリックします。
[セキュリティセンター] 画面が表示されます。
3. 左側のメニューから [マクロの設定] を選択し、[警告を表示してすべてのマクロを無効にする] を選択します。
4. [OK] をクリックします。
5. [OK] をクリックします。

eXTool のインストール手順

eXToolのインストール手順は次のとおりです。

1. eXTool をインストールする PC に、任意のユーザーでサインインします。
2. 「ArcSuite 4.0 オプション」 インストールメディアを、ドライブにセットします。
3. インストールメディア内の次のフォルダを PC のデスクトップにコピーします。
{インストールメディア} \¥ExcelTool
4. コピーしたフォルダ内の「license.txt」 ファイルを右クリックして表示されるメニューから「プロパティ」を選択します。
5. 「全般」 タブの「読み取り専用」 のチェックマークを外して、「OK」 をクリックします。
6. 「license.txt」 をメモ帳で開き、あらかじめ取得しておいたライセンスシリアル番号に書き換えて、上書き保存します。
7. exTool をインストールするフォルダを作成し、インストールするユーザーまたはグループ (Administrator グループ以外) の変更権限を設定します。

補 足 OS のセキュリティポリシーによっては、Administrator グループの変更権限ではインストールできないことがあります。

8. 次の手順で、Microsoft Excel を実行します。

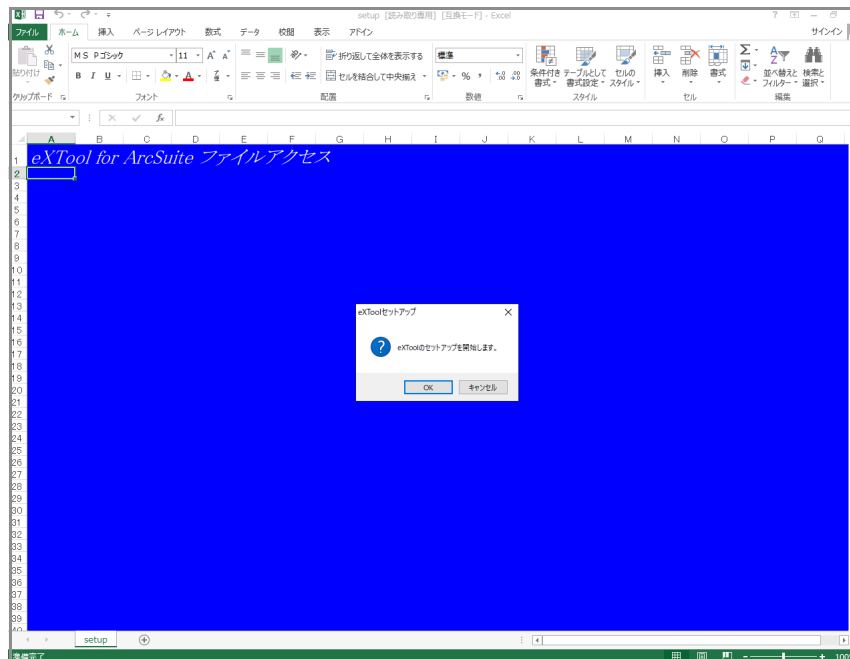
◆ Windows 8.1 の場合

- (1) Windows のスタート画面で、左下の「↓」 をクリックします。
- (2) 次のどれかをクリックします。
 - ・ [Excel 2016]
 - ・ [Excel 2019]
 - ・ [Excel]

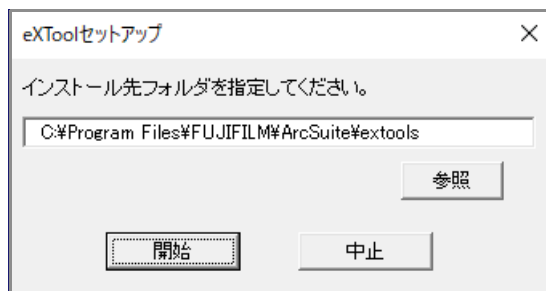
◆ Windows 10 の場合

- (1) Windows の「スタート」 メニューから、次のどれかをクリックします。
 - ・ [Excel 2016]
 - ・ [Excel 2019]
 - ・ [Excel]

9. 手順 3 でコピーした「setup.xls」ファイルをダブルクリックして開きます。
Excel のメッセージバーに「セキュリティの警告」が表示された場合は、「コンテンツの有効化」をクリックします。

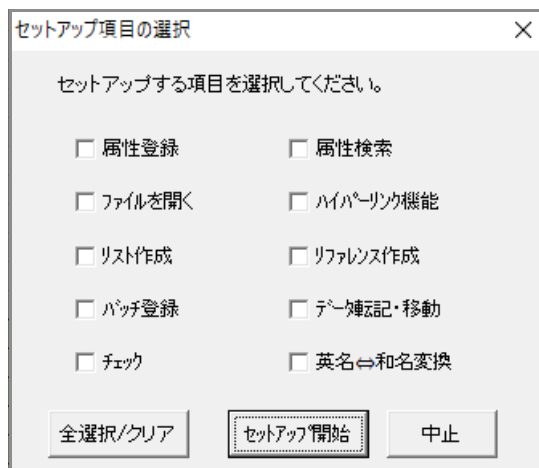


10. 「eXTool のセットアップを開始します。」のダイアログボックスで「OK」をクリックします。
インストール先フォルダを指定するダイアログボックスが表示されます。



補足 ログインユーザー名に全角文字が含まれている場合は、環境変数の TMP と TEMP に全角文字の含まれないフォルダ名を設定してください。

11. インストール先フォルダとして手順 7 で作成したフォルダを指定し、「開始」をクリックします。
「セットアップ項目の選択」ダイアログボックスが表示されます。



- 12.** [セットアップ開始] をクリックすると、eXToolに必要なファイルのコピーおよび EXCEL リボンメニューの作成が行われます。
「セットアップが完了しました。環境設定シートで設定を行ってください。」というダイアログボックスが表示されます。

補 足 ・この時、eXTool 本体「eXTool.xls」は「ext4_eXTool.xls」にリネームされてコピーされます。
・すでにインストール先に「ext2_eXTool.xls」、「ext3_eXTool.xls」、または「ext4_eXTool.xls」が存在した場合、設定されている設定シートの内容を引き継ぎます。

- 13.** [OK] をクリックし、引き続き環境設定を行います。

2.2 設定シート

2.2.1 Master シート

システム環境設定シートです。各項目を設定してください。

項目名	設定内容
機能	前回処理時に検索条件画面で選択された【機能】を書き込みます。
Service	前回処理対象となったサービス名を書き込みます。
ServiceId	前回処理対象となったServiceIdを書き込みます。
CabinetId	前回処理時に検索条件画面で選択された【CabinetId】を書き込みます。
DrawerName	前回処理時に検索条件画面で選択された【DrawerName】を書き込みます。
DrepId	前回処理時に検索条件画面で選択された【DrepId】を書き込みます。
UNIQUE (またはPRIMARY)	前回処理時に検索条件画面で選択された【最新のみ修正 (Primary)】およびキー属性名を書き込みます。
UniqueNull	前回処理時に検索条件画面で選択された【NULLを検索条件とするか】を書き込みます。 (Y: する/N: しない)
ClearChar	クリア文字を指定します。 ・属性登録時、この文字が先頭にある属性を Null クリアします。 ・新規登録時、この文字が class 列にあるとクラスを「クラスなし」で登録します。 ・リビジョンアップ時、この文字が revisionComment 列にあると Null クリアします。 ・リファレンス作成時、この文字が refClass 列にあるとクラスを「クラスなし」で作成します。
DeleteAtom	登録対象外の属性名を指定します。(*1)
Origin	データ開始座標 (行,列) を指定します。
Scroll	新規シートに結果を表示する処理でOriginの値分画面をスクロールするかどうかを指定します。 (Y: する/N: しない)
DirPath	前回リスト作成されたパスを書き込みます。(TIFF保管ディレクトリー)
SaveDirPath	バッチ登録処理後、正常終了したデータの移動先パスを指定します。
IFTKHome	ドキュメント管理サービスSDKのbinディレクトリーパスを指定します。
RevisionAtom	版管理属性を指定します。(*2)
dRepUser	ドキュメント管理サービスのユーザー情報 (ユーザー名/パスワード) を設定します。(*3)
HyperLink	ハイパーリンクの作成方法を指定します。 (1: 相対パス/2: 絶対パス)
DownloadMax	データ取り出しの最大件数を指定します。

項目名	設定内容
RegFileName	バッチ登録でname属性にsystem:name列の値をセットする場合に、相対パスかファイル名のみかを指定します。 (1：相対パス/2：ファイル名のみ)
DatatypeTable	
Extension	拡張子を定義します。
contentLabel	コンテンツラベルを定義します。(*4)
AtomTable (*5)	
AtomName	属性名 (英名) を定義します。
LocaleName	属性名 (和名) を定義します。(*6)
Type	属性のタイプを定義します。 (0：数値タイプ/1：文字タイプ/2：URIタイプ/3：多値タイプ) (*7)

* 1：複数指定する場合はカンマで区切ってください。

* 2：入庫チェック・出図チェック実行時、この属性の比較により版ずれをチェックします。

* 3：各機能においてドキュメント管理サービス SDK または一括登録コマンドを実行する際のユーザー / パスワードとなります。指定されていない場合、ユーザー・パスワード指定画面を表示します。

* 4：バッチ登録実行時、この値をもとに内容依存属性の更新を行います。省略されている場合は内容依存属性の更新は行いません。

* 5：AtomTable に定義されていない属性はテキスト型とみなします。

* 6：英名⇄和名変換実行時、この値をもとに変換が行われます。また、各機能実行時、この値がシート上のヘッダーに存在する場合は、内部的に英名に置き換えて処理を行います。

* 7：この eXTool でいう“文字タイプ”とは、数値タイプ (整数、小数、符号付整数)・URI タイプ・多値タイプ以外の、すべての属性を指します。ただし、日付型は、数値タイプを指定してください。

■ 設定例

項目名	設定値		
機能	u5_Cabinet_P2		
Service	dRepository		
ServiceId	u5		
CabinetId	Cabinet_P2		
DrawerName	Drawer_P12		
DrepId	103965989731789		
PRIMARY	user:PkeyT1,user:PkeyT2		
UniqueNull	N		
ClearChar	\$		
DeleteAtom	system:contentType		
Origin	1,1		
Scroll	Y		
DirPath	C:¥tmp¥xdw		
SaveDirPath	C:¥tmp¥save		
IFTKHome	C:¥Program files¥FUJIFILM¥ArcSuite¥dRepTools¥bin		
RevisionAtom	user:AtomTM19		
dRepUser	drep/drep		
HyperLink	1		
DownloadMax	100		
RegFileName	1		
DatatypeTable	Extension	contentLabel	
	tif	system:view、 system:print	
	xdw	system:view	
	doc		
AtomTable	AtomName	LocaleName	Type
	user:name	名前	1
	user:PkeyT1	プライマリ1	1
	user:PkeyT2	プライマリ2	1
	user:AtomTM20	文字20	1
	user:AtomNI10	数値10	0
	user:AtomNI09	数値09	0
	user:AtomNI08	数値08	0

2.2.2 RMaster シート

リファレンス作成機能用の環境設定シートです。設定の必要はありません。

項目名	設定内容
機能	前回処理時にリファレンス検索条件画面で選択された [機能] を書き込みます。
Service	前回処理対象となったサービス名を書き込みます。
ServiceId	前回処理対象となったServiceIdを書き込みます。
CabinetId	前回処理時にリファレンス検索条件画面で選択された [CabinetId] を書き込みます。
DrawerName	前回処理時にリファレンス検索条件画面で選択された [DrawerName] を書き込みます。
DrepId	前回処理時にリファレンス検索条件画面で選択された [DrepId] を書き込みます。
UNIQUE (または PRIMARY)	前回処理時にリファレンス検索条件画面で選択された [最新のみ修正 (Primary)] およびキー属性名を書き込みます。
UniqueNull	前回処理時にリファレンス検索条件画面で選択された [NULLを検索条件とするか] を書き込みます。 (Y: する/N: しない)
TargetCabinetId	前回処理時にリファレンス検索条件画面で選択された [登録先CabinetId] を書き込みます。
TargetDrawerName	前回処理時にリファレンス検索条件画面で選択された [登録先DrawerName] を書き込みます。
TargetDrepId	前回処理時にリファレンス検索条件画面で選択された [登録先DrepId] を書き込みます。
RefVersion	前回処理時にリファレンス検索条件画面で選択された [参照バージョン] を書き込みます。 (0: 最新バージョン/1: 指定バージョン)
CopyAttr	前回処理時にリファレンス検索条件画面で選択された [属性の継承] を書き込みます。 (ON: する/OFF: しない)
RefMode	前回処理時にリファレンス検索条件画面で選択された [モード] を書き込みます。 (0: 通常/1: ハード)

■ 設定例

項目名	設定値
機能	u5_Cabinet_P2
Service	dRepository
ServiceId	u5
CabinetId	Cabinet_P2
DrawerName	Drawer_P12
DrepId	103965989731789
PRIMARY	name

項目名	設定値
UniqueNull	N
TargetCabinetId	Cabinet_P1
TargetDrawerName	Drawer_P11
TargetDrepld	103965989731789
RefVersion	1
CopyAttr	off
RefMode	1

2.2.3 DMaster シート

データ転記・移動機能用の環境設定シートです。設定の必要はありません。

項目名	設定内容
機能	前回処理時にデータの転記・移動画面で選択された [機能] を書き込みます。
Service	前回処理対象となったサービス名を書き込みます。
ServiceId	前回処理対象となったServiceIdを書き込みます。
CabinetId	前回処理時にデータの転記・移動画面で選択された [CabinetId] を書き込みます。
DrawerName	前回処理時にデータの転記・移動画面で選択された [DrawerName] を書き込みます。
Drepld	前回処理時にデータの転記・移動画面で選択された [Drepld] を書き込みます。
UNIQUE (または PRIMARY)	前回処理時にデータの転記・移動画面で選択された [最新のみ修正 (Primary)] および キー属性名を書き込みます。
UniqueNull	前回処理時にデータの転記・移動画面で選択された [NULLを検索条件とするか] を書 き込みます。 (Y: する/N: しない)
TargetCabinetI d	前回処理時にデータの転記・移動画面で選択された [登録先CabinetId] を書き込みま す。
TargetDrawer Name	前回処理時にデータの転記・移動画面で選択された [登録先DrawerName] を書き込み ます。
TargetDrepld	前回処理時にデータの転記・移動画面で選択された [登録先Drepld] を書き込みます。
LocalDisk	前回処理時にデータの転記・移動画面で選択された [ローカルディスク] を書き込みま す。
ExecMode	前回処理時にデータの転記・移動画面で選択された [処理] を書き込みます。 (0: 転記/1: 移動)
Lock	前回処理時にデータの転記・移動画面で選択された [データのロック] を書き込みます。 (Y: する/N: しない)

■ 設定例

項目名	設定値
機能	u5_Cabinet_P2
Service	dRepository
ServiceId	u5
CabinetId	Cabinet_P2
DrawerName	Drawer_P12
DrepId	103965989731789
UNIQUE	name
UniqueNull	N
TargetCabinetId	Cabinet_P1
TargetDrawerName	Drawer_P11
TargetDrepId	106924040530187
LocalDisk	c:¥tmp
ExecMode	1
Lock	Y

2.2.4 BMaster シート

バッチ登録機能用の環境設定シートです。設定の必要はありません。

項目名	設定内容
機能	前回処理時にバッチ登録画面で選択された【機能】を書き込みます。
Service	前回処理対象となったサービス名を書き込みます。
ServiceId	前回処理対象となったServiceIdを書き込みます。
CabinetId	前回処理時にバッチ登録画面で選択された【CabinetId】を書き込みます。
DrawerName	前回処理時にバッチ登録画面で選択された【DrawerName】を書き込みます。
DrepId	前回処理時にバッチ登録画面で選択された【DrepId】を書き込みます。
UNIQUE (または PRIMARY)	前回処理時にバッチ登録画面で選択された【最新のみ修正 (Primary)】およびキー属性名を書き込みます。
UniqueNull	前回処理時にバッチ登録画面で選択された【NULLを検索条件とするか】を書き込みます。 (Y: する/N: しない)
Attribute	前回処理時にバッチ登録画面で選択された【属性アイコン作成】を書き込みます。 (Y: する/N: しない)
RegName	前回処理時にバッチ登録画面で選択された【name属性列】を書き込みます。
RegNameSep	前回処理時にバッチ登録画面で選択された【name属性セパレータ】を書き込みます。

項目名	設定内容
RegNameExt	前回処理時にバッチ登録画面で選択された [name属性の拡張子継承] を書き込みます。 (Y: する/N: しない)
NameNull	前回処理時にバッチ登録画面で選択された [name属性初期値] を書き込みます。
entryMode	前回処理時にバッチ登録画面で選択された [entryMode] を書き込みます。
existenceCheck	前回処理時にバッチ登録画面で選択された [データの存在チェック] を書き込みます。 (Y: する/N: しない)
templateName	前回処理時にバッチ登録画面で選択された [属性テンプレート] を書き込みます。
UnLock	前回処理時にバッチ登録画面で選択された [データのアンロック] を書き込みます。 (Y: する/N: しない)
MakeFolder	前回処理時にバッチ登録画面で選択された [フォルダ作成] を書き込みます。 (Y: する/N: しない)

■ 設定例

項目名	設定値
機能	u5_Cabinet_P2
Service	dRepository
ServiceId	u5
CabinetId	Cabinet_P2
DrawerName	Drawer_P12
DrepId	103965989731789
UNIQUE	name
UniqueNull	N
Attribute	Y
RegName	PkeyT1、PkeyT2
RegNameSep	-
RegNameExt	Y
NameNull	eXTool
entryMode	entity
existenceCheck	N
templateName	Extol
UnLock	Y
MakeFolder	Y

2.2.5 UMaster シート

属性登録機能用の環境設定シートです。設定の必要はありません。

項目名	設定内容
機能	前回処理時に属性登録画面で選択された【機能】を書き込みます。
Service	前回処理対象となったサービス名を書き込みます。
ServiceId	前回処理対象となったServiceIdを書き込みます。
CabinetId	前回処理時に属性登録画面で選択された【CabinetId】を書き込みます。
DrawerName	前回処理時に属性登録画面で選択された【DrawerName】を書き込みます。
DrepId	前回処理時に属性登録画面で選択された【DrepId】を書き込みます。
UNIQUE (または PRIMARY)	前回処理時に属性登録画面で選択された【最新のみ修正 (Primary)】およびキー属性名を書き込みます。
UniqueNull	前回処理時に属性登録画面で選択された【NULLを検索条件とするか】を書き込みます。 (Y: する/N: しない)
UnLock	前回処理時に属性登録画面で選択された【データのアンロック】を書き込みます。 (Y: する/N: しない)

■ 設定例

項目名	設定値
機能	u5_Cabinet_P2
Service	dRepository
ServiceId	u5
CabinetId	Cabinet_P2
DrawerName	Drawer_P12
DrepId	103965989731789
UNIQUE	name
UniqueNull	N
UnLock	Y

2.2.6 Cabinet シート

キャビネット定義シートです。各項目を設定してください。

項目名	設定内容
機能	機能名を定義します。
Category	機能分類を設定してください。 (B：バッチ登録/D：データ転記・移動/R：リファレンス作成/U：属性登録/E：その他) (*1)
Service	対象サービス名を指定します。 (dRepository/Local) (*7)
ServiceId	対象ServiceIdを指定します。
CabinetId	対象がdRepositoryの場合はCabinetIdを、Localの場合はローカルディレクトリーのパスを指定します。
DrawerName	対象DrawerNameを指定します。(*2)
DrepId	対象ドロワーまたはディレクトリーのDrepIdを指定します。(*6)
Key	キー種別を指定します。 (PRIMARY：最新版のみ対象とする/UNIQUE：すべて対象とする)
KeyAtom1～6	キー属性名を指定します。
UniqueNull	Nullを検索条件とするかどうかを指定します。 (Y：する/N：しない)
TargetCabinetId	リファレンス作成先および転記・移動先CabinetIdを指定します。
TargetDrawerName	リファレンス作成先および転記・移動先DrawerNameを指定します。
TargetDrepId	リファレンス作成先および転記・移動先DrepIdを指定します。
LocalDisk	転記・移動先ディレクトリーを指定します。
ExecMode	処理モードを指定します。 (0：転記/1：移動)
Lock	ロックするかどうかを指定します。 (Y：する/N：しない)
UnLock	アンロックするかどうかを指定します。 (Y：する/N：しない)
Attribute	作成を行うかどうかを設定してください。 (Y：する/N：しない)
RegName	登録されるname属性に使用する属性名を指定します。(*3)
RegNameSep	登録されるname属性に使用するセパレータを指定します。
RegNameExt	登録されるname属性に実体ファイルの拡張子を引き継ぐかどうかを指定します。 (Y：引き継ぐ/N：引き継がない) ただし、name列を指定した場合は、無視されます。(name列には、拡張子を引継ぎません)

項目名	設定内容
NameNull	登録されるname属性がNullの場合に代わりに登録する値を指定します。(*4)
entryMode	entryModeのデフォルト値を指定します。
existenceCheck	データの存在チェックを行うかどうかを指定します。 (Y: する/N: しない)
MakeFolder	name属性に指定されているディレクトリー階層の作成を行うかどうかを指定します。 (Y: する/N: しない)
templateName	属性テンプレート名を指定します。
EditionAtom1 ～6	エディションキー属性を指定します。(*5)
RefVersion	リファレンスの参照先バージョンを指定します。 (0: 最新バージョン/1: 指定バージョン)
CopyAttr	属性継承するかどうかを指定します。 (ON: する/OFF: しない)
RefMode	リファレンスのモードを指定します。 (0: 通常/1: ハード)
CopyAtom1～ 5	継承する属性名を指定します。

- * 1: 複数指定する場合はカンマで区切ってください。
- * 2: dRepld が指定されている場合はそちらを優先し DrawerName の指定は無効になります。
- * 3: 省略した場合はシート上の name 列の値を使用します。
- * 4: 省略した場合は登録 name 属性が Null のデータはエラーになります。ただし、登録 name 属性に name 列を指定した場合の Attribute 作成に限り文字列 "Attribute" を登録 name 属性にします。
- * 5: 版管理開始機能実行時のエディションキーを指定します。
- * 6: dRepld の前に <> を付けて区別するためのコメントを記入します。省略できます。
- * 7: 属性検索 (U)・チェック (E) 機能以外が機能コードに指定されている場合、Service:Local が指定されていても画面表示時に無効行となり画面に表示されません。

■ 設定例

機能	Category	Service	ServiceId	CabinetId	Drawer Name	DrepId	Key
u5_Cabinet_P1	B,U,E	dRepositor y	u5	Cabinet_P1	Drawer_P1 1	1039659 8973178 9	PRIMAR Y
u5_Cabinet_P2	R	dRepositor y	u5	Cabinet_P2	Drawer_P1 1	1039659 8973178 9	PRIMAR Y
u5_Cabinet_Pn on	D	dRepositor y	u5	Cabinet_Pn o	Drawer_P1 1	1039659 8973178 9	UNIQUE
NTW00483_sp ool	E	Local	NTW0048 3	c:¥tmp¥spo ol	Drawer_P1 1	1039659 8973178 9	PRIMAR Y
NTW00483_XD W	E	Local	NTW0048 3	c:¥tmp¥xd w	Drawer_P1 1	1039659 8973178 9	UNIQUE

機能	KeyAto m	KeyAto m	KeyAto m	KeyAto m	KeyAto m	KeyAto m	UniqueN ull	TargetCabin et
	1	2	3	4	5	6		
u5_Cabinet_P1	PkeyT1						Y	Cabinet_P2
u5_Cabinet_P2	PkeyT1	PkeyT2					N	Cabinet_Pn on
u5_Cabinet_Pn on	AtomT M20						N	Cabinet_P1
NTW00483_sp ool	name						N	
NTW00483_XD W	name						N	

機能	TargetDrawer	TargetDrepId	LocalDisk	ExecMode	Lock	UnLock	Attribute
u5_Cabinet_P1	Drawer_P21	1039659897 3				Y	Y
u5_Cabinet_P2	Drawer_Pnon	1039659897 3					
u5_Cabinet_Pnon	Drawer_P11		C:¥spool	0	Y		
NTW00483_spool							
NTW00483_XDW							

機能	RegName	RegName Sep	RegName Ext	Name Null	entry Mode	existence Check	Make Folder	template Name
u5_Cabinet_P1	PkeyT1, PkeyN1	-	Y	eXTool	entity	Y	Y	eXTool

機能	RegName	RegName Sep	RegName Ext	Name Null	entry Mode	existence Check	Make Folder	template Name
u5_Cabinet_P2								
u5_Cabinet_Pn on								
NTW00483_sp ool								
NTW00483_XD W								

機能	Edition Atom	Edition Atom	Edition Atom	Edition Atom	Edition Atom	Edition Atom	Ref Version	CopyAttr
	1	2	3	4	5	6		
u5_Cabinet_P1	PkeyT1	PkeyT2						
u5_Cabinet_P2							0	
u5_Cabinet_Pn on								on
NTW00483_sp ool	PkeyT1	PkeyT2						
NTW00483_XD W	PkeyT1	PkeyT2						

機能	RefMode	CopyAtom	CopyAtom	CopyAtom	CopyAtom	CopyAtom
		1	2	3	4	5
u5_Cabinet_P1						
u5_Cabinet_P2						
u5_Cabinet_Pnon	0	system:nam e				
NTW00483_spoo l						
NTW00483_XD W						

2.2.7 DebugMode シート

動作設定シートです。各項目を設定してください。

項目名	設定内容
機能選択モード	機能選択モードかどうかを指定します。 ON：各機能実行画面にて [キー種別] と [Key1～6] を変更不可にします。 OFF：すべての項目が変更できます。
デバッグモード	デバッグモードかどうかを指定します。 ON：作業ファイル・ディレクトリーなどを削除しません。 OFF：作業ファイル・ディレクトリーなどをすべて削除します。
ログモード	ログモードを指定します。 Normal：ログファイルを削除しません。 Daily：当システム起動時にログファイルを削除します。
ユーザー・パスワード 確認	ユーザーとパスワードをダイアログボックスにて指定する方法を指定します。 最初の1回のみ：最初の実行時にだけ、ダイアログボックスを表示します。 (以降、実行時は、最初に指定されたユーザー・パスワードを使用します) 処理実行毎：実行時に毎回ダイアログボックスを表示して、ユーザー・パスワードを確認します。
コマンドプロンプト表 示	実行時にコマンドプロンプトを表示するかを指定します。 ON：コマンドプロンプトを表示して実行します。 OFF：コマンドプロンプトを表示しないで実行します。

2.3 バージョンアップ

次の手順で、eXToolをバージョンアップします。

1. 事前に、次の項目を確認します。

- ・古いバージョンの eXTool のインストール先

補足 eXTool のインストールのとき、インストール先フォルダを指定するダイアログボックスで指定した情報です。

- ・古いバージョンの eXTool でインストールした機能

補足 eXTool のインストールのとき、[セットアップ項目の選択] ダイアログボックスで選択した機能です。

2. 古いバージョンのドキュメント管理サービス SDK をアンインストールします。

参照 詳細については、『ドキュメント管理サービス SDK リファレンスガイド』を参照してください。

3. 新しいバージョンのドキュメント管理サービス SDK をインストールします。

参照 詳細については、『ドキュメント管理サービス SDK リファレンスガイド』を参照してください。

4. 新しいバージョンの eXTool をインストールします。

eXTool のインストール先とインストールする機能は、手順 [1](#) で確認した古いバージョンと同じ内容にしてください。

参照 詳細については、[「eXTool のインストール手順」\(P.16\)](#) を参照してください。

2.4 eXTool のアンインストール

次の手順で、eXToolをアンインストールします。

1. eXTool をアンインストールする PC に、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。

2. 次のファイルを削除します。

- ・「{eXTool のインストールディレクトリー} ¥ext4_eXTool.xls」
- ・「{eXTool のインストールディレクトリー} ¥eXTool.log」（エラーが発生した場合のみ存在します）

補 足 {eXTool のインストールディレクトリー} のデフォルトは、「C:¥Program Files¥FUJIFILM¥ArcSuite¥extools」です。

3. 次の作業ディレクトリーを削除します。

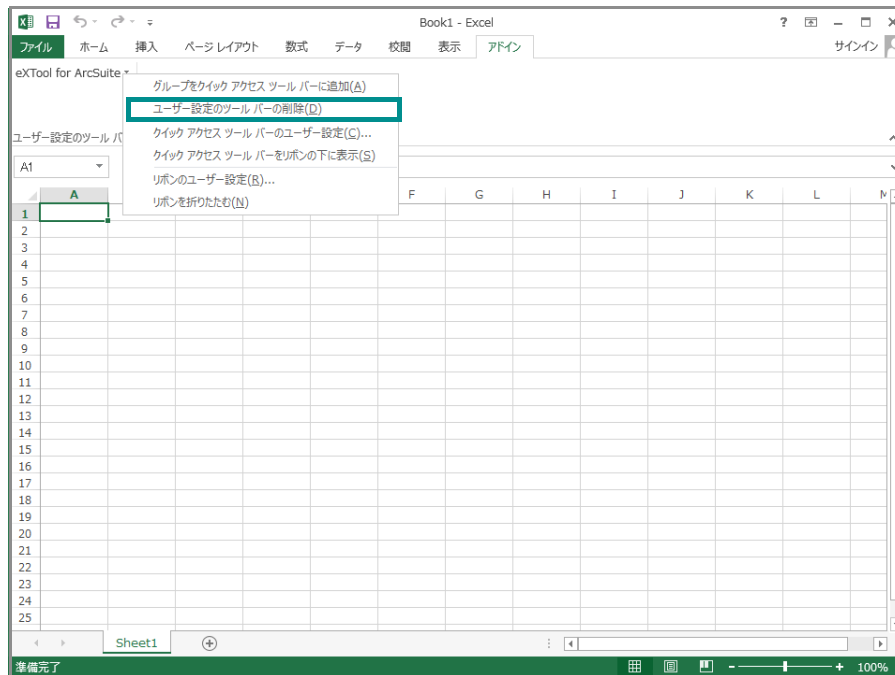
「{環境変数 [TMP] に設定されているディレクトリー} ¥eXTool」

- 補 足**
- ・作業ディレクトリーとは、各作業の一時的なファイルが格納されるフォルダです。
 - ・{環境変数 [TMP] に設定されているディレクトリー} のデフォルトは、「C:¥Users¥ {Windows サインインユーザー ID} ¥AppData¥Local¥Temp」です。
 - ・{Windows サインインユーザー ID} は、Windows にサインインしているユーザーのアカウント名です。
 - ・次のフォルダは、隠しフォルダーです。表示されない場合は、[フォルダーオプション] で隠しフォルダーを表示する設定に変更してください。
 - 「C:¥Users¥ {Windows サインインユーザー ID} ¥AppData」フォルダー

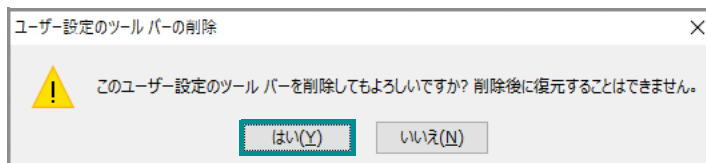
参 照 環境変数 [TMP] のディレクトリーの確認方法については、[「4.1.1 作業ファイルの作成先」\(P.67\)](#)を参照してください。

4. Excel のツールバーにある [eXTool for ArcSuite] を削除します。

- (1) [アドイン] タブにある [eXTool for ArcSuite] ツールバー上で右クリックしてポップアップメニューを表示し、[ユーザー設定のツールバーの削除] を選択します。



- (2) [ユーザー設定のツールバーの削除] ウィンドウで、[はい] をクリックします。



これで、eXToolのアンインストールは終了です。

eXToolをアンインストールしたあとは、ドキュメント管理サービスSDKをアンインストールします。

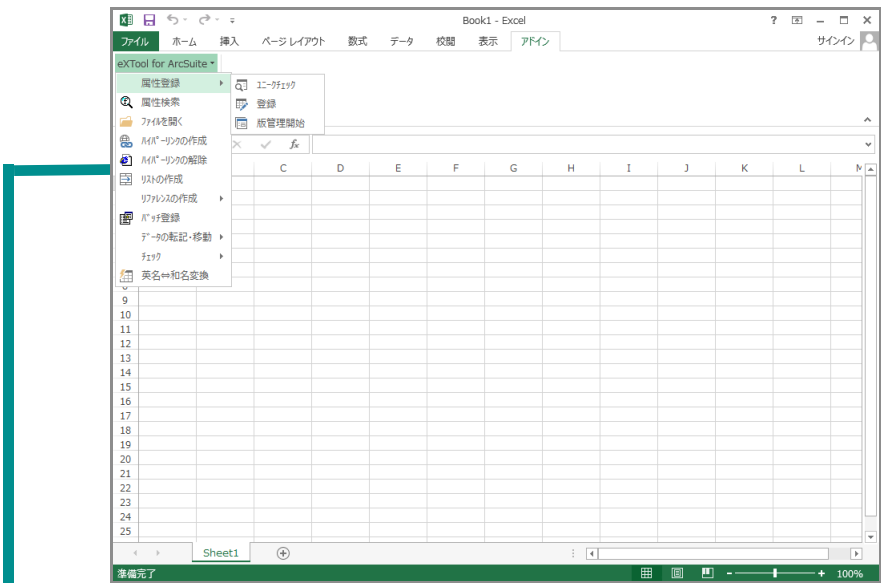
参照 ドキュメント管理サービス SDK のアンインストールについては、『ドキュメント管理サービス SDK リファレンスガイド』を参照してください。



3 操作方法

3.1 eXTool の起動

eXToolは、Excelのリボンメニューから各機能を実行します。



eXTool for ArcSuite		
属性登録 ▶	ユニークチェック	
属性検索	登録	
ファイルを開く	版管理開始	
ハイパーリンクの作成		
ハイパーリンクの解除		
リストの作成		
リファレンスの作成 ▶	ユニークチェック	
パッチ登録	作成	
データの転記・移動 ▶	→	ユニークチェック
チェック ▶	ユニークチェック	転記・移動
英名⇄和名変換	入庫チェック	
	出庫チェック	

3.2 入力データシート

シート上のデータを必要とする機能を実行する場合、次のルールで、シートが入力データとして読み込まれます。

行選択されている場合は、選択された行だけを処理します。行選択されていない場合は、すべての行を処理します。

	A	B	C	D
1	systemu:name	user:PkeyT1	user:PkeyN2	
2	A001.tif	A-001		1
3	A002.tif	A-002		2
4	A003.tif	A-003		1
5	A004.tif	A-004		2
6	A005.tif	A-005		1
7				
8				

シートにオートフィルター（Excel標準機能）が使用されている場合は、表示行だけを処理します。

	A	B	C	D
1	systemu:name ▼	user:PkeyT1 ▼	user:PkeyN2 ▼	
2	A001.tif	A-001		1
4	A003.tif	A-003		1
6	A005.tif	A-005		1
7				
8				

補足 オートフィルターが使用された状態での行選択はできません。

文字型属性の値に"*"が含まれる場合は部分検索ができます。（バッチ登録機能は除く）

■ シート上のデータ例（キー属性：user:PkeyT1）

user:PkeyT1	user:PkeyT2	user:AtomTM 20	user:AtomNI10	検索条件
A*	01	山田	222	→ "A"で始まるもの
*	02	佐藤	444	→ すべて
A*1	03	鈴木	666	→ "A"で始まり"1"で終わるもの

数値型属性の値が">"、"<"、"="、"BETWEEN"のどれかで始まる場合は範囲検索ができます。（バッチ登録機能・リファレンス作成機能で、参照バージョンが【最新】の時は除く）

■ シート上のデータ例（キー属性：user:PkeyN1）

user:PkeyN1	user:PkeyT2	user:AtomTM 20	user:AtomNI10	検索条件
<5	01	山田	222	→ 5より小さいもの

user:PkeyN1	user:PkeyT2	user:AtomTM 20	user:AtomNI10	検索条件
>2&=<5	02	佐藤	444	→ 2より大きく5以下のもの
BETWEEN(2,5)	03	鈴木	666	→ 2～5のもの

3.3 画面 UI

3.3.1 検索条件設定画面

検索条件を設定する機能を実行した場合、検索条件設定画面を表示します。
検索条件設定画面にて各項目を選択してください。

表：検索条件設定画面の設定項目

項目名	選択機能
機能	機能を選択してください。変更された場合、次の項目はすべてCabinetシート（*2）の該当行（機能が一致するもの）の値に変更されます。
CabinetId	対象キャビネットのCabinetIdを選択してください。（*4）
DrawerName	対象ドロワーのDrawerNameを選択してください。（*3、*4）
Drepld	対象Drepldを選択してください。（*3、*4）
キー種別	キー種別を選択してください。"Primary"が選択された場合、最新エディションのデータだけが処理対象になります。（*1、*3、*4）
Key1～6	検索条件となる属性名を選択してください。（*1、*3、*4）
NULLを検索条件とするか	シート上の検索条件属性列にNull値が指定された場合の検索方法（する：IsNull検索する/しない：検索条件に含めない）を選択してください。（*3、*4）
テスト	チェックすることでシート上の対象データのうち1行のみ処理を実行します。属性検索機能を実行した場合、表示されません。

- * 1：機能選択モード（DebugMode シート [機能選択モード]）が "ON" の場合はこれらの項目は変更できません。
- * 2：属性検索・チェック機能以外の場合、Service:Local は表示しません。
- * 3：属性検索機能、または属性登録ユニークチェック機能を実行する際、シート上に targetDrepld 列が存在する場合はこれらの項目は変更できません。
- * 4：属性検索機能、または属性登録ユニークチェック機能を実行する際、シート上に targetObjectId 列が存在する場合はこれらの項目は変更できません。
- * 5：Master シートに記載されている内容が初期表示されます。
Master シートに記載されている機能が初期表示できない場合（Cabinet シートから削除された場合など）、Cabinet シートで定義されている有効な機能の先頭行の値が初期表示されます。

選択内容に対して次のチェックを行い、エラーがある場合はメッセージ表示部に表示します。

- ・ Key1 ～ 6 で属性名に重複がある場合はエラーになります。（メッセージ：「すでに同名の属性が選択されています。実行できません。」）
- ・ CabinetId がディレクトリーのパス（Service が "Local" の場合）で、かつディレクトリーが存在しない場合はエラーになります。（メッセージ：「該当ディレクトリは存在しません。」）
- ・ チェック機能実行時で、かつキー種別が "Unique" の場合はエラーになります。（メッセージ：「当機能はキー種別 [UNIQUE] では実行できません。」）
- ・ チェック機能実行時で、かつ Key1 ～ 6 に版管理属性が選択されている場合はエラーになります。（メッセージ：「版管理属性が選択されています。実行はできません。」）
- ・ 版管理開始機能実行時で、かつキー種別が "Primary" の場合はエラーになります。（メッセージ：「当機能はキー種別 [PRIMARY] では実行できません。」）

各ボタンをクリックすると、処理を開始または中止します。

[リスト作成]

キャビネット名として選択されているディレクトリー配下のファイルリストをシート上のsystem:name列に展開します。

- ・ シート上に system:name 列が存在しない場合はエラーになります。

補 足 CabinetId としてディレクトリーが選択されている場合のみ操作できます。

[開始]

処理を開始し、画面を閉じます。

[キャンセル]

処理を中止し、画面を閉じます。

3.3.2 リファレンス検索条件設定画面

〔リファレンスの作成〕 → 〔作成〕 をクリックすると、リファレンス検索条件設定画面が表示されます。
リファレンス検索条件設定画面にて各項目を選択してください。

表：リファレンス検索条件設定画面の設定項目

項目名		選択機能
機能		機能を選択してください。変更された場合、次の項目はすべてCabinetシートの該当行（機能が一致するもの）の値に変更されます。（*2）
参照先の設定	CabinetId	対象キャビネットのCabinetIdを選択してください。
	DrawerName	対象ドロワーのDrawerNameを選択してください。
	Drepld	対象Drepldを選択してください。
	キー種別	キー種別を選択してください。"Primary"が選択された場合、最新エディションのデータだけが処理対象になります。（*1）
	Key1～6	検索条件となる属性名を選択してください。（*1）
	NULLを検索条件とするか	シート上の検索条件属性列にNull値が指定された場合の検索方法（する：IsNull検索する/しない：検索条件に含めない）を選択してください。
登録先の設定	CabinetId	リファレンス作成先キャビネットのCabinetIdを選択してください。
	DrawerName	リファレンス作成先ドロワーのDrawerNameを選択してください。
	Drepld	リファレンス作成先Drepld選択してください。
	参照バージョン	リファレンスの参照バージョン（最新/指定）を選択してください。（*1）
	属性の継承	リファレンスへの属性継承（する/しない）を選択してください。（*1）
	モード	リファレンスのモード（通常/ハード）を選択してください。（*1）
テスト		チェックすることでシート上の対象データのうち1行のみ検索を実行します。

- * 1：機能選択モード（DebugMode シート [機能選択モード]）が "ON" の場合はこれらの項目は変更できません。
- * 2：Cabinet シートにて Service:Local が指定されても、Local は表示されません。
- * 3：R Master シートに記載されている内容が初期表示されます。
R Master シートに記載されている機能が初期表示できない場合（Cabinet シートから削除された場合など）、Cabinet シートで定義されている有効な機能の先頭行の値が初期表示されます。

選択内容に対して次のチェックを行い、エラーがある場合はメッセージ表示部に表示します。

- ・Key1～6 で属性名に重複がある場合はエラーになります。（メッセージ：「すでに同名の属性が選択されています。実行できません。」）
- ・モード欄でハードが選択されている状態で、参照先キャビネットと登録先キャビネットが異なる場合はエラーになります。（メッセージ：「登録先と参照先で異なるキャビネットにハードリファレンスは、作成できません。キャビネット名は選択できません。」）
- ・参照バージョン欄で最新が選択されている状態で、モード欄のハードが選択された場合はエラーになります。（メッセージ：「参照バージョン [最新] でハードリファレンスを作成することはできません。」）

各ボタンをクリックすることで処理を開始または中止します。

〔開始〕

処理を開始し、画面を閉じます。

〔キャンセル〕

処理を中止し、画面を閉じます。

3.3.3 データ転記・移動画面

[データの転記・移動] → [転記・移動] をクリックすると、データの転記・移動画面が表示されます。
データの転記・移動画面にて各項目を選択してください。

表：データ転記・移動画面の設定項目

項目名		選択機能
機能		機能を選択してください。変更された場合、次の項目はすべてCabinetシートの該当行（機能が一致するもの）の値に変更されます。（*4）
参照先の設定	CabinetId	対象キャビネットのCabinetIdを選択してください。
	DrawerName	対象ドロワーのDrawerNameを選択してください。
	Drepld	対象Drepldを選択してください。
	キー種別	キー種別を選択してください。"Primary"が選択された場合、最新エディションのデータだけが処理対象になります。（*1）
	Key1～6	検索条件となる属性名を選択してください。（*1）
	NULLを検索条件とするか	シート上の検索条件属性列にNull値が指定された場合の検索方法（する：IsNull検索する/しない：検索条件に含めない）を選択してください。
登録先の設定	CabinetId	登録先キャビネットのDrepldを選択してください。（*2）
	DrawerName	登録先ドロワーのDrawerNameを選択してください。（*2）
	Drepld	Drepld登録先Drepldを選択してください。（*2）
	ローカルディスク	登録先ディレクトリーのパスを指定します。[参照] をクリックすることにより、ダイアログボックスにてディレクトリーを選択することもできます。
	処理	処理モード（転記/移動）を選択してください。
	データのロック	元データのロックモード（する/しない）を選択してください。（*3）
テスト		チェックすることでシート上の対象データのうち1行のみ処理を実行します。

- * 1：機能選択モード（DebugMode シート [機能選択モード]）が "ON" の場合はこれらの項目は変更できません。
- * 2：ローカルディスク欄に値が設定されている場合、登録先はローカルマシンとなりこれら項目は選択できません。
- * 3：処理モードが転記でローカルディスク欄に値が設定されている場合のみ操作できます。
- * 4：Cabinet シートにて Service:Local が指定されても、Local は表示されません。
- * 5：D Master シートに記載されている内容が初期表示されます。
D Master シートに記載されている機能が初期表示できない場合（Cabinet シートから削除された場合など）、Cabinet シートで定義されている有効な機能の先頭行の値が初期表示されます。

選択内容に対して次のチェックを行い、エラーがある場合はメッセージ表示部に表示します。

- ・Key1～6 で属性名に重複がある場合はエラーになります。（メッセージ：「すでに同名の属性が選択されています。実行できません。」）
- ・参照先キャビネットと登録先キャビネットが同じ場合はエラーになります。（メッセージ：「登録先と参照先で同じキャビネット名は選択できません。」）
- ・ローカルディスク欄に値が入力されていて、かつそのディレクトリーが存在しない場合はエラーになります。（メッセージ：「該当ディレクトリは存在しません。」）
- ・ローカルディスク欄が未入力で、かつ登録先キャビネットと登録先ドロワーのどちらか一方でも未選択の場合はエラーになります。（メッセージ：「登録先が選択されていません。」）

各ボタンをクリックすると、処理を開始または中止します。

[開始]

処理を開始し、画面を閉じます。

[キャンセル]

処理を中止し、画面を閉じます。

3.3.4 バッチ登録画面

[バッチ登録] をクリックすると、バッチ登録画面が表示されます。
バッチ登録画面にて各項目を選択してください。

表 :バッチ登録画面の設定項目

項目名		選択機能
機能		機能を選択してください。変更された場合、次の項目はすべてCabinetシートの該当行（機能が一致するもの）の値に変更されます。（*4）
登録先の設定	CabinetId	対象キャビネットのCabinetIdを選択してください。
	DrawerName	対象ドロワーのDrawerNameを選択してください。
	Drepld	対象Drepldを選択してください。
	キー種別	キー種別を選択してください。“Primary”が選択された場合、最新エディションのデータだけが処理対象になります。（*1）
	Key1～6	検索条件となる属性名を選択してください。（*1）
	NULLを検索条件とするか	シート上の検索条件属性列にNull値が指定された場合の検索方法（する：IsNull検索する/しない：検索条件に含めない）を選択してください。
登録オプション	属性テンプレート	属性テンプレートを選択してください。
	entryMode	entryModeを選択してください。
	name属性列	登録されるname属性に使用する属性名を選択してください。省略した場合はシート上のname列の値が使用されます。
	name属性列初期値	登録されるname属性がNullの場合に代わりに登録する値を選択してください。（*2）
	name属性セパレータ	セパレータ（不要な場合は“NULL”）を選択してください。
	name属性に拡張子を継承	登録されるname属性に実体ファイルの拡張子を引き継ぐかどうか（する：引き継ぐ/しない：引き継がない）を選択します。
	属性アイコン作成	name列がNullの行が存在した場合にAttribute（属性アイコン）作成するか選択してください。
	フォルダ作成	name属性に指定されたフォルダの作成（する/しない）を選択してください。
	データのアンロック	選択されたデータのアンロック（する/しない）を選択してください。
	データの存在チェック	データの存在チェック（する：存在チェックする/しない：存在チェックしない）を選択してください。（*3）
テスト		チェックすることでシート上の対象データのうち1行のみ処理を実行します。

* 1：機能選択モード（DebugMode シート [機能選択モード]）が ON の場合はこれらの項目は変更できません。
* 2：省略した場合は登録 name 属性が Null のデータはエラーになります。ただし、登録 name 属性に name 列を指定した場合の Attribute 作成に限り文字列 "Attribute" を登録 name 属性にします。
* 3：存在チェックする場合、該当データがドキュメント管理サービス上に存在した際に処理をスキップします。
* 4：Cabinet シートにて Service:Local が指定されても、Local は表示されません。

- * 5 : B Master シートに記載されている内容が初期表示されます。
B Master シートに記載されている機能が初期表示できない場合（Cabinet シートから削除された場合など）、Cabinet シートで定義されている有効な機能の先頭行の値が初期表示されます。

選択内容に対して次のチェックを行い、エラーがある場合はメッセージ表示部に表示します。

- ・ Key1 ～ 6 で属性名に重複がある場合はエラーになります。（メッセージ：「すでに同名の属性が選択されています。実行できません。」）

各ボタンをクリックすると、処理を開始または中止します。

[開始]

処理を開始し、画面を閉じます。

[キャンセル]

処理を中止し、画面を閉じます。

3.3.5 属性登録画面

[属性登録] → [登録] をクリックすると、属性登録画面が表示されます。
属性登録画面にて各項目を選択してください。

表：属性登録画面の設定項目

項目名		選択機能
機能		機能を選択してください。変更された場合、次の項目はすべてCabinetシートの該当行（機能が一致するもの）の値に変更します。（*2）
参照先の設定	CabinetId	対象キャビネットのCabinetIdを選択してください。（*4）
	DrawerName	対象ドロワーのDrawerNameを選択してください。（*3、*4）
	Drepld	対象Drepldを選択してください。（*3、*4）
	キー種別	キー種別を選択してください。“Primary”が選択された場合、最新エディションのデータだけが処理対象になります。（*1、*3、*4）
	Key1～6	検索条件となる属性名を選択してください。（*1、*3、*4）
	NULLを検索条件とするか	シート上の検索条件属性列にNull値が指定された場合の検索方法（する：IsNull検索する/しない：検索条件に含めない）を選択してください。（*3、*4）
登録オプション	データのアンロック	選択されたデータのアンロック（する/しない）を選択してください。
テスト		チェックすることでシート上の対象データのうち1行のみ処理を実行します。

- * 1：機能選択モード（DebugMode シート [機能選択モード]）が ON の場合はこれらの項目は変更できません。
- * 2：Cabinet シートにて Service:Local が指定されても、Local は表示されません。
- * 3：シート上に targetDrepld 列が存在する場合は、これらの項目は変更できません。
- * 4：シート上に targetObjectId 列が存在する場合は、これらの項目は変更できません。
- * 5：UMaster シートに記載されている内容が初期表示されます。
UMaster シートに記載されている機能が初期表示できない場合（Cabinet シートから削除された場合など）、Cabinet シートで定義されている有効な機能の先頭行の値を初期表示します。

選択内容に対して次のチェックを行い、エラーがある場合はメッセージ表示部に表示します。

- ・ Key1 ～ 6 で属性名に重複がある場合はエラーになります。（メッセージ：「すでに同名の属性が選択されています。実行できません。」）

各ボタンをクリックすると、処理を開始または中止します。

[開始]

処理を開始し、画面を閉じます。

[キャンセル]

処理を中止し、画面を閉じます。

3.3.6 IFTK ユーザー・パスワード指定画面

各処理にて「開始」をクリックすると、IFTKユーザー・パスワード指定画面が表示されます。
 「IFTKユーザー・パスワード指定」画面にて各項目を選択してください。

表：「IFTK ユーザー・パスワード指定」画面の設定項目

項目名	選択機能
ユーザー	実行ユーザー名を指定します。
パスワード	実行ユーザーのパスワードを指定します。

- ・ Master シートにて dRepUser が指定されている場合は表示されません。
- ・ ユーザー・パスワード確認モード（DebugMode シート 「ユーザー・パスワード確認」）が 1 回の場合、ユーザー・パスワード確認画面は最初の処理実行時にのみ表示されます。
- ・ dRepUser 欄にユーザー名のみが記載されていた場合、ログインダイアログボックスはユーザー名が入力された状態で表示されます。
- ・ ユーザー名またはパスワードが誤っていた場合は、処理実行時にエラーダイアログボックスが表示されま

3.4 属性登録機能

属性登録機能は、「ユニークチェック」、「登録」、または「版管理開始」の機能があります。

3.4.1 ユニークチェック

シート上のデータの内容でドキュメント管理サービスを検索し、1件だけ存在するかどうかをチェックします。

ユニークチェックメニューをクリックすると、検索条件設定画面が表示されます。

参照 詳細については、[\[3.3.1 検索条件設定画面\] \(P.39\)](#) を参照してください。

検索条件設定画面にて「開始」をクリックすると、シート上のデータをもとに該当データの検索処理が開始します。この時、マウ斯卡ーソルは砂時計となり、ステータスバーに処理中メッセージが表示されます。

■ シート上のデータ例

user:PkeyT1	user:PkeyT2	user:AtomTM20	user:AtomNI10
A001	01	山田	222
A002	02	佐藤	444
A003	03	鈴木	666

- ・ キー属性に指定した列が存在しない場合はエラーになります。
- ・ キー属性がすべて未入力の行はエラーになります。
- ・ 数値タイプの範囲検索ができます。詳細については、[\[3.2 入力データシート\] \(P.37\)](#) を参照してください。
- ・ 文字タイプの部分検索ができます。詳細については、[\[3.2 入力データシート\] \(P.37\)](#) を参照してください。
- ・ シート上に targetDrepld 列または targetObjectId 列が存在する場合は、その値をキーとして検索を行います。(属性登録機能以外のユニークチェックの場合には無効となります)

取得したデータ件数をもとに、1 件のみ存在したものを"OK"、それ以外を"NG"としてシート上の検索結果列に展開します。

user:PkeyT1	user:PkeyT2	user:AtomTM20	user:AtomNI10	検索結果
A001	01	山田	222	OK
A002	02	佐藤	444	該当データが存在しません
A003	03	鈴木	666	NG [ドキュメント管理サービスエラーメッセージ]

- ・ 検索結果列が存在しない場合は列の最後に検索結果列を自動作成します。

3.4.2 登録

シート上のデータの内容で、ドキュメント管理サービスにあるデータを更新します。
登録メニューをクリックすると、属性登録画面が表示されます。

参照 詳細については、[\[3.3.5 属性登録画面\] \(P.46\)](#) を参照してください。

属性登録画面にて「開始」をクリックすると、シート上のデータをもとに該当データの更新処理が開始します。この時、マウスカーソルは砂時計となり、ステータスバーに処理中メッセージが表示されます。ステータスバーに表示される件数は、実際に処理を実行するコマンド数です。フォルダを作成する場合、フォルダ登録も件数に含まれます。階層の深さ、フォルダ数によっては、登録ファイル数の数倍のコマンドを実行します。

■ シート上のデータ例

user:PkeyT1	user:PkeyT2	user:AtomTM20	user:AtomNI10
A001	01	山田	222
A002	02	佐藤	444
A003	03	鈴木	666

- ・キー属性に指定した列が存在しない場合はエラーになります。
- ・キー属性がすべて未入力の行はエラーになります。
- ・数値タイプの範囲検索ができます。詳細については、[\[3.2 入力データシート\] \(P.37\)](#) を参照してください。
- ・文字タイプの部分検索ができます。詳細については、[\[3.2 入力データシート\] \(P.37\)](#) を参照してください。
- ・シート上に targetDreplId 列または targetObjectId 列が存在する場合はその値をキーとして検索を行います。
- ・キー属性以外のシート上の各ユーザー属性列の値が該当データに付加されます。(エディションキー属性は付加できません)
- ・シート上にクリア文字 (Master シート [ClearChar]) が指定されている場合は、属性値を Null クリアします。
- ・データのアンロック「する」が選択されている場合は、属性更新に成功したデータに対してアンロックを行います。

検索キー属性を更新する場合

検索キー属性列を 2 列記述することで、最初の列を検索条件として 2 列目の値を更新します。

user:PkeyT1 (*1)	user:PkeyT1 (*2)	user:PkeyT2	user:AtomTM2 0	user:AtomNI10
A001	A001x	01	山田	222
A002	A002x	02	佐藤	444
A003	A003x	03	鈴木	666

- * 1：検索キーです。
- * 2：付与属性です。

属性更新に成功したものを"OK"、それ以外を"NG"としてシート上の実行結果列に展開します。

user:PkeyT1	user:PkeyT2	user:AtomTM20	user:AtomNI10	実行結果
A001	01	山田	222	OK
A002	02	佐藤	444	該当データが存在しません
A003	03	鈴木	666	NG [ドキュメント管理サービスエラーメッセージ]

- ・実行結果列が存在しない場合は列の最後に実行結果列を自動作成します。

3.4.3 版管理開始

シート上のデータの内容で、ドキュメント管理サービスにあるデータの版管理をします。

版管理開始メニューをクリックすると、検索条件設定画面が表示されます。

参照 詳細については、[\[3.3.1 検索条件設定画面\] \(P.39\)](#)を参照してください。

検索条件設定画面にて「開始」をクリックすると、シート上のデータをもとに該当データの更新処理が開始します。この時、マウスカーソルは砂時計となり、ステータスバーに処理中メッセージが表示されます。

■ シート上のデータ例

user:AtomT2	user:AtomN1	user:PkeyT1	user:PkeyT2
山田	2	A001	01
佐藤	4	A002	02
鈴木	6	A003	03

- ・キー属性に指定した列が存在しない場合はエラーになります。
- ・キー属性がすべて未入力の行はエラーになります。
- ・数値タイプの範囲検索ができます。
- ・文字タイプの部分検索ができます。
- ・エディションキー属性に指定した列の値によって版管理下に追加します。

参照 詳細については、[\[3.2 入力データシート\] \(P.37\)](#)を参照してください。

版管理下への追加に成功したものを"OK"、それ以外を"NG"としてシート上の実行結果列に展開します。

user:AtomT2	user:AtomN1	user:PkeyT1	user:PkeyT2	検索結果
山田	2	A001	01	OK
佐藤	4	A002	02	該当データが存在しません
鈴木	6	A003	03	NG [dRepositoryエラーメッセージ]

- ・実行結果列が存在しない場合は列の最後に実行結果列を自動作成します。

3.5 属性検索機能

シート上のデータの内容で、ドキュメント管理サービスにあるデータの属性を取得し、新規ブックに展開します。属性検索メニューをクリックすると、検索条件設定画面が表示されます。

参照 詳細については、[\[3.3.1 検索条件設定画面\] \(P.39\)](#) を参照してください。

検索条件設定画面にて「開始」をクリックすると、シート上のデータをもとに該当データの属性検索処理が開始します。この時、マウスカーソルは砂時計となり、ステータスバーに処理中メッセージが表示されます。

■ シート上のデータ例

user:PkeyT1	user:PkeyT2	user:AtomTM20	user:AtomNI10	system:drepld	system:objectId
A001	01	山田			
A002	02	佐藤			
A003	03	鈴木			

- ・キー属性に指定した列が存在しない場合はエラーになります。
- ・キー属性がすべて未入力の行はエラーになります。
- ・キー属性が多値型属性の場合は「|」での検索はできません。
- ・数値タイプの範囲検索ができます。詳細については、[\[3.2 入力データシート\] \(P.37\)](#) を参照してください。
- ・文字タイプの部分検索ができます。詳細については、[\[3.2 入力データシート\] \(P.37\)](#) を参照してください。
- ・シート上の各ユーザー属性が検索対象属性となります。
- ・シート上に system:drepld 列が存在する場合、対象データの drepld も検索対象属性となります。
- ・シート上に system:objectId 列が存在する場合、対象データの objectId (serviceld:cabinetId:drepld) も検索対象属性となります。

取得した検索結果を新規ブックの検索結果シート上に展開します。

user:PkeyT1	user:PkeyT2	user:AtomTM20	user:AtomNI10	system:drepld	system:objectId
A001	01	山田	222	103965989731789	drep_olive:CabinetP1:103965989731789
A002	02	佐藤	444	103965989921789	drep_olive:CabinetP1:103965989921789
A001	01	山田	222	103965989731789	drep_olive:CabinetP1:103965989731789

このとき、シート上の属性ヘッダーにオートフィルター（Excel標準機能）を使用します。

- ・スクロールモード（Master シート [Scroll]）が "Y" の場合、データ開始座標（Master シート [Origin]）に結果を展開します。
- ・検索条件指定シートのヘッダー行に一つでも和名が含まれる場合、検索結果表示のヘッダー行も和名（日本語名）で表示されます。
ただし、Master シートにて指定されていない属性は英名にて表示されます。
- ・シート上に targetDrepld 列または targetObjectId 列が存在する場合は、その値をキーとして検索を行います。また、targetDrepld 列と targetObjectId 列を同時に指定した場合は、エラーになります。

フィルター機能を利用して、ある条件のデータだけを表示するといった操作ができます。

	A	B	C	D
1	systemu:name	user:PkeyT1	user:PkeyN2	
2	A001.tif	↑↓ A 昇順(S) ↑↓ Z 降順(Q) 色で並べ替え(I) > シートビュー(V) > 🗑️ "user:PkeyN2" からフィルターをクリア(C) 色フィルター(I) > 数値フィルター(E) > 検索 🔍 ☑️ (すべて選択)		
3	A002.tif			
4	A003.tif			
5	A004.tif			
6	A005.tif			
7				
8				
9				
10				
11				

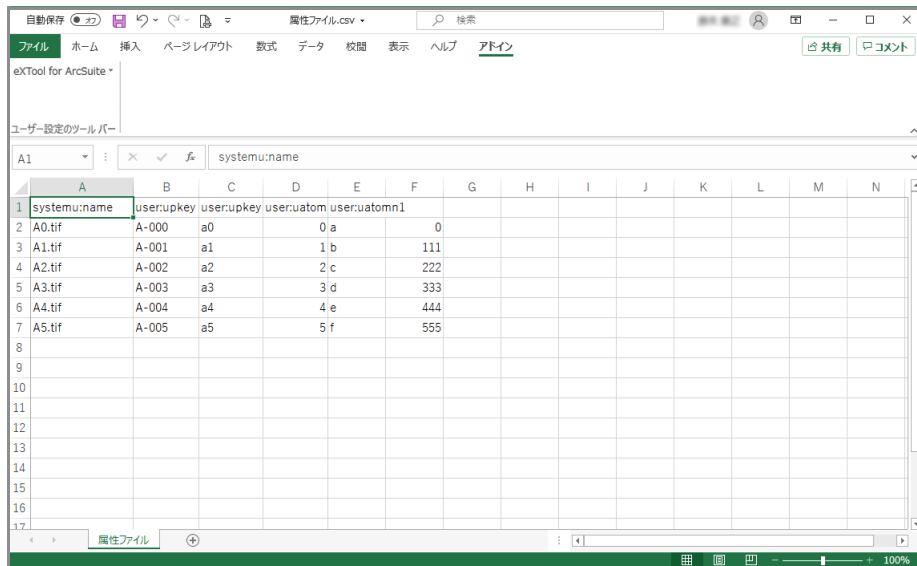
ここをクリックします

3.6 ファイルオープン機能

各機能で入力データとして扱うファイルを選択して開きます。

ファイルを開くメニューをクリックすると、[ファイルを指定してください] ダイアログボックスが表示されます。

ファイルを選択して[開く]をクリックすると、選択されたファイルが新規ブックに展開されます。



補足 Excel の機能によってセル値が自動編集 ("001" → "1" など) されるのを防ぐため、セルの書式をすべて文字型として開きます。

3.7 ハイパーリンク作成機能

シート上のname列の値をローカルディスク上のファイル名とみなし、シートと同じディレクトリーにname列のファイル名と同じ名前のファイルが存在した場合にリンクを作成します。

ハイパーリンク作成メニューをクリックすると、シート上のsystem:name列の値がファイル名とみなされます。処理対象ブックと同じ位置に同名ファイルが存在した場合はExcelの機能によりハイパーリンクが作成されます。

- ・シート上に system:name 列が存在しない場合はエラーになります。
- ・system:name 列の値に拡張子が含まれない場合は ".tif" を付加してファイルを検索します。それでも存在しない場合は system:name 列の値をフォルダ名として検索します。
- ・新規ブックの場合、Master シートの DirPath 配下から検索します。
- ・既存ブックの場合、ブックと同じフォルダ配下から検索します。
- ・Master シート [HyperLink] にて設定された値によって、相対パス [1] または絶対パス [2] のどちらかでハイパーリンクを作成します。

	A	B	C	D	E
1	systemu:name ▾	user:pkey1 ▾	user:pkey2 ▾	user:pkeyn1 ▾	
2	A1.tif	A-001	a0		1
3	A2.tif	A-002	a1		2
4	A3.tif	A-003	a2		1
5	A4.tif	A-004	a3		2
6	A5.tif	A-005	a4		1
7					
8					

ハイパーリンクをクリックすると、該当するファイルを関連付けされたアプリケーションで開きます。

3.8 ハイパーリンク解除機能

シート上のname列のリンクが設定されたセルに対してリンクを解除します。

ハイパーリンク解除メニューをクリックすると、シート上のsystem:name列のハイパーリンクの設定が解除されます。

- ・ シート上に system:name 列が存在しない場合はエラーになります。

3.9 リスト作成機能

ローカルディスク上の任意のディレクトリーの配下のファイル名をシート上のname列にリスト展開します。

- ・ リスト作成メニューをクリックすると、[フォルダの参照] ダイアログボックスが表示されます。
- ・ シート上に system:name 列が存在しない場合はエラーになります。

[フォルダの参照] ダイアログボックスにて、フォルダを選択し、[OK] をクリックすると、選択されたフォルダの配下にあるファイル名の一覧がシート上のsystem:name列に展開されます。

- ・ ダイアログボックスによりサブディレクトリー以下のファイルも対象とするかどうかを選択できます。
- ・ シート上の 2 行目に system:dir01 ~ system:dir29 列が存在する場合は、サブディレクトリーのフォルダ名を分解して展開します。

	A	B	C	D	E
1	systemu:name	user:pkey1	user:pkey2	user:pkeyn1	
2		system:dir01	system:dir02	system:dir03	
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					



	A	B	C	D	E
1	systemu:name	user:pkey1	user:pkey2	user:pkeyn1	
2	A0.tif				
3	A1.tif				
4	A2.tif				
5	A3.tif				
6	A4.tif				
7	FolderA1¥A4.tif	FolderA1			
8	FolderA1¥FolderA2¥A4.tif	FolderA1	FolderA2		
9	FolderA1¥FolderA2¥FolderA3¥A4.tif	FolderA1	FolderA2	FolderA3	
10	FolderB1¥A4.tif	FolderB1			
11					
12					

3.10 リファレンス作成機能

リファレンス作成機能は、「ユニークチェック」または「作成」の機能があります。

3.10.1 ユニークチェック

属性登録機能のユニークチェックと同じ機能を持ちます。

参照 詳細については、[\[3.4.1 ユニークチェック\] \(P.48\)](#) を参照してください。

3.10.2 作成

シート上のデータの内容で、ドキュメント管理サービスにあるデータのリファレンスを作成します。
作成メニューをクリックすると、リファレンス検索条件設定画面が表示されます。

参照 詳細については、[\[3.3.2 リファレンス検索条件設定画面\] \(P.41\)](#) を参照してください。

リファレンス検索条件設定画面にて「開始」をクリックすると、シート上のデータをもとに該当データのリファレンス作成処理が開始します。この時、マウスカーソルは砂時計となり、ステータスバーに処理中メッセージが表示されます。

注記

- ・登録先の DrepId が指定されている場合は、リファレンス作成先ドロワーの存在チェックを行いません。
- ・登録先と参照先で異なるキャビネットにリファレンスを作成できるのは、通常リファレンスだけです。ハードリファレンスは作成できません。

■ シート上のデータ例

user:PkeyT1	user:PkeyT2	user:AtomTM20	user:AtomNI10
A001	01	山田	222
A002	02	佐藤	444
A003	03	鈴木	666

- ・キー属性に指定した列が存在しない場合はエラーになります。
- ・キー属性がすべて未入力の行はエラーになります。
- ・数値タイプの範囲検索ができます。ただし、参照バージョン「最新」の場合、範囲検索はできません。詳細については、[\[3.2 入力データシート\] \(P.37\)](#) を参照してください。
- ・文字タイプの部分検索ができます。ただし、参照バージョン「最新」の場合、部分検索はできません。詳細については、[\[3.2 入力データシート\] \(P.37\)](#) を参照してください。
- ・キー属性以外のシート上の各ユーザー属性列の値がリファレンスに付加されます。(エディションキー属性は付加できません)
- ・シート上の refClass 列に指定されたアトム名のクラスで登録します。指定しないと該当データのクラスを付与して作成されます。クリア文字 (Master シート [ClearChar]) が指定されている場合は、クラスを「クラスなし」で作成します。

リファレンスの作成に成功したものを"OK"、それ以外を"NG"としてシート上の実行結果列に展開します。

user:PkeyT1	user:PkeyT2	user:AtomTM20	user:AtomNI10	実行結果
A001	01	山田	222	OK
A002	02	佐藤	444	該当データが存在しません
A003	03	鈴木	666	NG [ドキュメント管理サービスエラーメッセージ]

- ・実行結果列が存在しない場合は列の最後に実行結果列を自動作成します。

3.11 バッチ登録機能

シート上のデータの内容で、ローカルディスクにあるデータをドキュメント管理サービスに登録します。
バッチ登録メニューをクリックすると、バッチ登録画面が表示されます。

参照 詳細については、[\[3.3.4 バッチ登録画面\] \(P.44\)](#) を参照してください。

バッチ登録画面にて「開始」をクリックすると、シート上のデータをもとに該当データの登録処理が開始します。
この時、マウスカーソルは砂時計となり、ステータスバーに処理中メッセージが表示されます。
シート上にsystem:name列が存在しない場合はエラーになります。

■ シート上のデータ例

system: name	user: PkeyT1	user: PkeyT2	user: AtomTM20	user: AtomNI10	entry Mode	class	revisionCo mment	locationDre pld
	A001	00	吉田	0	entity	user: aclass	新訂します	103965989 731789
A1.tif	A002	01	山田	222	revision Up		改訂しました	
A2.tif.	A003	02	佐藤	444	overWri te			103965989 791789
A3.tif	A004	03	鈴木	666	merge			103965989 731799
A4.tif	A005	04	竹尾	888	revise			103965989 731780
Folder¥ A4.tif	A006	05	村本	000	entity	user: bclass		

- ・キー属性に指定した列が存在しない場合はエラーになります。
- ・name 属性列に指定した列が存在しない場合はエラーになります。
- ・キー属性がすべて未入力の行はエラーになります。
- ・シート上の各ユーザー属性列の値が実体ファイルに付加されます。
- ・登録する実体ファイルのパスは「TIFF 保管ディレクトリ (Master シート [DirPath]) + "¥" + system:name 列の値」です。
- ・属性アイコン作成「する」が選択されている場合は、system:name 列の値が Null の行は属性アイコンとして登録します。

補足 上記例では 1 行目のデータが属性アイコンとして登録されます。

- ・シート上に locationCondition 列または locationDrepld 列が存在し、値が Null でない場合、バッチ登録画面で選択された登録先よりシート上の値が優先されます。

補足 name 列の指定が相対パスになっている場合、シート上に locationCondition 列または locationDrepld 列が存在する場合、エラーとなります。

- ・entryMode 列の値が Null または列自体が存在しない場合、デフォルト entryMode (BMaster シート [entryMode]) にしたがって登録します。シート上に entryMode 列が存在し、値が Null でない場合、バッチ登録画面で選択された entryMode よりシート上の値が優先されます。
- ・新規登録時、class 列に指定されたアトム名のクラスを登録します。指定しない場合は、キャビネットに登録されているデフォルトのクラスが登録されます。クリア文字 (Master シート [ClearChar]) が指定されている場合は、クラスを「クラスなし」で登録します。

- ・リビジョンアップ時、revisionComment 列の値を登録します。指定しない場合は、"dRepository Regist" の値が登録されます。クリア文字（Master シート [ClearChar]）が指定されている場合は、改訂コメントを Null クリアします。
- ・サブフォルダを含み、バッチ登録画面でフォルダ作成「する」が選択されている、登録の場合は、ドキュメント管理サービス上に同名のフォルダが存在するかどうかをチェックします。
- ・サブフォルダを含み、バッチ登録画面でフォルダ作成「する」が選択されている、登録の場合は、ドキュメント管理サービス上に同名のフォルダを作成（存在しない場合のみ）し、そのフォルダ配下にデータを登録します。ただし、同一階層に同じ名前のフォルダが複数存在した場合は、実体の登録でエラーとなります。

補足 上記例では 6 行目のデータが [Folder] フォルダの配下に登録されます。

- ・サブフォルダを含み、バッチ登録画面でフォルダ作成「する」が選択されている、登録の場合は、サブフォルダ名として『folder』と『location』では、フォルダ作成できません。
- ・サブフォルダを含み、バッチ登録画面でフォルダ作成「する」が選択されている、登録の場合は、キャビネットに必須属性が付与されている時は、エラーとなります。
- ・データのアンロック「する」が選択されている場合は、登録に成功したデータに対してアンロックを行います。

entryMode とその処理内容

entryMode	処理内容	
	キー種別：PRIMARY	キー種別：UNIQUE
entity	最新エディションとして新規登録します。（*1）	新規登録します。（*2）
revisionUp	該当データが存在した場合は最新リビジョンとして新たに登録します。（*1）	該当データが存在した場合は最新リビジョンとして新たに登録します。（*2）
overWrite	該当データが存在した場合は上書き登録します。（*1）	該当データが存在した場合は上書き登録します。（*2）
merge	該当データが存在した場合はマージ登録します。（*1）	該当データが存在した場合はマージ登録します。（*2）
revise	該当データの最新エディションのコピーを作成し、そのコピーを最新エディションにします。（*1）	指定できません。entityとして登録されます。（*2）

* 1：登録先キャビネットがエディション管理されていない場合は、実行できません。

* 2：登録先キャビネットがエディション管理されている場合は、エディションキーを付加できません。

データ登録に成功したものを"OK"、それ以外を"NG"としてシート上の実行結果列に展開します。

system: name	user: PkeyT1	user: PkeyT2	user: AtomTM20	user: AtomNI10	entryMode	実行結果
	A001	00	吉田	0	entity	OK
A1.tif	A002	01	山田	222	revisionUp	OK
A2.tif	A003	02	佐藤	444	overWrite	該当データが存在しません
A3.tif	A004	03	鈴木	666	merge	OK
A4.tif	A005	04	竹尾	888	revise	NG [ドキュメント管理サービスエラーメッセージ]
Folder¥ A4.tif	A006	05	村本	000	entity	OK

- ・ 実行結果列が存在しない場合は列の最後に実行結果列を自動作成します。
- ・ 処理終了後、ダイアログボックスにより正常終了分データを指定フォルダへ移動するかどうかを選択できます。

- 補 足**
- ・ 移動先フォルダは Master シート [SaveDirPath] にて指定できます。
 - ・ 移動先フォルダが指定されていない場合は、データの移動確認は行いません。
 - ・ 移動先フォルダ配下に日付フォルダ (YYYYMMDD_hhmmss) を作成し、その配下へデータおよびシート (ファイル名は "登録結果.CSV") を移動します。
 - ・ バッチ登録時のヘッダが system : status と記述された場合、status に自動変換し、実行します。
 - ・ 版管理されているオブジェクトを改版登録する場合のみ、system:oldStatus 列を指定することで、改版されるオブジェクトの状態を変更することができます。

■ シートのデータ例

system:name	user:EditionKey	system:oldStatus
Z01.tif	1	system:fixed

■ system:oldStatus 列が有効な entryMode

entryMode	キー種別 : PRIMARY	キー種別 : UNIQUE
entity	○ (*1)	× (*4)
revisionUp	× (*2)	× (*4)
overWrite	× (*2)	× (*4)
merge	× (*2)	× (*4)
revise	○ (*3)	× (*4)

- * 1 : 改版されるオブジェクトが存在しない場合は、無視されます。
- * 2 : 改版処理は行われない為、無視されます。
- * 3 : system:oldStatus 列に system:obsolete (破棄) を指定すると、最新エディションが無くなり、コピーが作成できない為、エラーになります。(ドキュメント管理サービス SDK のエラーメッセージ)
- * 4 : 版管理されていないオブジェクトは対象外となる為、エラーメッセージが表示されます。(メッセージ : 「キー種別 : UNIQUE では system:oldStatus 列を指定できません。」)

3.12 データ転記・移動機能

データ転記・移動機能は、「ユニークチェック」、または「転記・移動」の機能があります。

3.12.1 ユニークチェック

属性登録機能のユニークチェックと同じ機能を持ちます。

参照 詳細については、[\[3.4.1 ユニークチェック\] \(P.48\)](#) を参照してください。

3.12.2 転記・移動

シート上のデータの内容で、ドキュメント管理サービスにあるデータの転記および移動（ドキュメント管理サービスまたはローカルディスクへ）をします。

転記・移動メニューをクリックすると、データ転記・移動画面が表示されます。

参照 詳細については、[\[3.3.3 データ転記・移動画面\] \(P.42\)](#) を参照してください。

データ転記・移動画面にて「開始」をクリックすると、シート上のデータをもとに該当データの転記または移動処理が開始します。この時、マウスカーソルは砂時計となり、ステータスバーに処理中メッセージが表示されます。

- 補足**
- ・ 処理対象がフォルダの場合はフォルダおよびフォルダ階層下のプライマリコンテンツのみ取り出しできます。（属性は不可）
 - ・ ローカルに取り出したデータは system:name 属性ではなくコンテンツ名をファイル名にします。
 - ・ ローカルに取り出した時のファイルのパスおよび取得した属性はデータと同じ位置に "list.csv" として保存されます。（すでに "list.csv" が存在する場合、ダイアログボックスにより追記するか上書きするかを選択できます。）

■ シート上のデータ例

user:PkeyT1	user:PkeyT2	user:AtomTM20	user:AtomNI10
A001	01	山田	222
A002	02	佐藤	444
A003	03	鈴木	666

- ・ キー属性に指定した列が存在しない場合はエラーになります。
- ・ キー属性がすべて未入力の行はエラーになります。
- ・ 数値タイプの範囲検索ができます。詳細については、[\[3.2 入力データシート\] \(P.37\)](#) を参照してください。
- ・ 文字タイプの部分検索ができます。詳細については、[\[3.2 入力データシート\] \(P.37\)](#) を参照してください。
- ・ データのロック「する」が選択されている場合は、転記に成功したデータに対してロックを行います。データの転記・移動に成功したものを"OK"、それ以外を"NG"としてシート上の実行結果列に展開します。

user:PkeyT1	user:PkeyT2	user:AtomTM20	user:AtomNI10	実行結果
A001	01	山田	222	OK
A002	02	佐藤	444	該当データが存在しません
A003	03	鈴木	666	NG [ドキュメント管理サービスエラーメッセージ]

- ・ 実行結果列が存在しない場合は列の最後に実行結果列を自動作成します。

3.13 チェック機能

チェック機能は、「ユニークチェック」、「入庫チェック」、または「出図チェック」の機能があります。

補足 本機能はキー種別 [Primary] でのみ動作します。

3.13.1 ユニークチェック

属性登録機能のユニークチェックと同じ機能を持ちます。

参照 詳細については、[\[3.4.1 ユニークチェック\] \(P.48\)](#) を参照してください。

3.13.2 入庫チェック

シート上のデータの内容で、ドキュメント管理サービスにあるデータの属性を取得し、版管理属性についてシート上の入力値と大小比較することにより、登録可能かどうかをチェックします。

入庫チェックメニューをクリックすると、検索条件設定画面が表示されます。

- ・ 版管理属性 (Master シート [RevisionAtom]) に指定した列が存在しない場合はエラーになります。

参照 詳細については、[\[3.3.1 検索条件設定画面\] \(P.39\)](#) を参照してください。

検索条件設定画面にて [開始] をクリックすると、シート上のデータをもとに該当データの属性検索処理が開始します。この時、マウスカーソルは砂時計となり、ステータスバーに処理中メッセージが表示されます。

■ シート上のデータ例

user:PkeyT1	user:PkeyT2	user:AtomTM20	user:AtomNI10	user:AtomTM19
A001	01	山田	222	01
A002	02	佐藤	444	02
A003	03	鈴木	666	03

- ・ キー属性に指定した列が存在しない場合はエラーになります。
- ・ キー属性がすべて未入力の行はエラーになります。
- ・ 数値タイプの範囲検索ができます。詳細については、[\[3.2 入力データシート\] \(P.37\)](#) を参照してください。
- ・ 文字タイプの部分検索ができます。詳細については、[\[3.2 入力データシート\] \(P.37\)](#) を参照してください。

取得した結果をもとに、ドキュメント管理サービス上の版管理属性値をシート上のdRepRev列に、リビジョン比較結果 (シート上のリビジョン>dRepRevの場合は"OK") を実行結果列に展開します。

補足 リビジョンを文字コードの大小 (0 ~ 9、A ~ Z、a ~ z、10 ~ 19、1A ~ 1Z... の順) で比較し、シート上のリビジョン > dRepRev の場合、および該当データが存在しない場合は "OK" になります。

user:PkeyT1	user:PkeyT2	user:AtomTM20	user:AtomNI10	user:AtomTN19	dRepRev	実行結果
A001	01	山田	222	01	02	最新の版番号は02です。
A002	02	佐藤	444	02	02	登録済みです。
A003	03	鈴木	666	03	02	OK

- ・ dRepRev 列が存在しない場合は列の最後に dRepRev 列を自動作成します。

- ・実行結果列が存在しない場合は列の最後に実行結果列を自動作成します。
- ・この時、実行結果が "OK" 以外の行は色付け表示します。
- ・この時、シート上のヘッダーにオートフィルター（Excel 標準機能）を掛けます。

3.13.3 出図チェック

シート上のデータの内容で、ドキュメント管理サービスにあるデータの属性を取得し、版管理属性についてシート上の入力値と大小比較することにより、出図可能かどうかをチェックします。

出図チェックメニューをクリックすると、検索条件設定画面が表示されます。

- ・版管理属性（Master シート [RevisionAtom]）に指定した列が存在しない場合はエラーになります。

参照 詳細については、[\[3.3.1 検索条件設定画面\] \(P.39\)](#) を参照してください。

検索条件設定画面にて「開始」をクリックすると、シート上のデータをもとに該当データの属性検索処理が開始します。この時、マウスカーソルは砂時計となり、ステータスバーに処理中メッセージが表示されます。

■ シート上のデータ例

user:PkeyT1	user:PkeyT2	user:AtomTM20	user:AtomNI10	user:AtomTM19
A001	01	山田	222	01
A002	02	佐藤	444	02
A003	03	鈴木	666	03

- ・キー属性に指定した列が存在しない場合はエラーになります。
- ・キー属性がすべて未入力の行はエラーになります。
- ・数値タイプの範囲検索ができます。詳細については、[\[3.2 入力データシート\] \(P.37\)](#) を参照してください。
- ・文字タイプの部分検索ができます。詳細については、[\[3.2 入力データシート\] \(P.37\)](#) を参照してください。

取得した結果をもとに、ドキュメント管理サービス上の版管理属性値をシート上のdRepRev列に、リビジョン比較結果（シート上のリビジョン=dRepRevの場合は"OK"）を実行結果列に展開します。

補足 リビジョンを文字コードの大小（0～9、A～Z、a～z、10～19、1A～1Z...の順）で比較し、シート上のリビジョン > dRepRev の場合は "OK" になります。

user:PkeyT1	user:PkeyT2	user:AtomTM20	user:AtomNI10	user:AtomTN19	dRepRev	実行結果
A001	01	山田	222	01	02	最新の版番号は02です。
A002	02	佐藤	444	02	02	登録済みです。
A003	03	鈴木	666	03	02	OK

- ・dRepRev 列が存在しない場合は列の最後に dRepRev 列を自動作成します。
- ・実行結果列が存在しない場合は列の最後に実行結果列を自動作成します。
- ・この時、実行結果が "OK" 以外の行は色付け表示します。
- ・この時、シート上のヘッダーにオートフィルター（Excel 標準機能）を掛けます。

3.14 英名⇄和名変換機能

シート上の属性名を英名→和名、または和名→英名に変換して、属性の名前がわかるようにします。

英名⇄和名変換メニューをクリックすると、Masterシート [AtomTable] の設定に従い、シート上の属性名ヘッダーが、属性名 (AtomName) →ロケール名 (LocaleName)、またはロケール名 (LocaleName) →属性名 (AtomName) に変換されます。

	A	B	C	D	E
1	systemu:name	user:pkey1	user:atomt1	user:atomn1	
2	A0.tif	A-000	a	0	
3	A1.tif	A-001	b	111	
4	A2.tif	A-002	c	222	
5	A3.tif	A-003	d	333	
6	A4.tif	A-004	e	444	
7					
8					

	A	B	C	D	E
1	名前	プライマリー1	文字1	数字1	
2	A0.tif	A-000	a	0	
3	A1.tif	A-001	b	111	
4	A2.tif	A-002	c	222	
5	A3.tif	A-003	d	333	
6	A4.tif	A-004	e	444	
7					
8					

3.15 eXTool の終了

eXToolのブックを閉じるかExcelを終了すると、eXToolが終了します。終了すると、ブックは自動的に保存されます。



4 出力ファイル

4.1 作業ファイル

作業ファイルはデバッグモード（DebugModeシート [DebugMode]）が"ON"の場合、すべての作業ファイルがそのまま保存され、"OFF"の場合はすべて削除されます。また、eXToolを起動したときに1日以上前の作業ファイルはすべて削除されます。

処理実行中でない作業ファイルは削除できます。

作業ファイルは、次のルールで作成されます。

4.1.1 作業ファイルの作成先

作業ファイルは、次の場所に作成されます。

「{環境変数 [TMP] に設定されているディレクトリー} ¥eXTool」

補足 {環境変数 [TMP] に設定されているディレクトリー} のデフォルトは、「C:¥Users¥ {Windows サインインユーザー ID} ¥AppData¥Local¥Temp」です。

{環境変数 [TMP] に設定されているディレクトリー} は、次の手順で確認できます。

1. Windows の [スタート] ボタンを右クリックし、[コントロールパネル] を選択します。

2. [システム] をクリックします。

補足 [コントロールパネル] の [表示方法] が、[大きいアイコン] または [小さいアイコン] に選択されているときに、[システム] は表示されます。

3. [システムの詳細設定] をクリックします。

[システムのプロパティ] 画面の [詳細設定] タブが表示されます。

4. [詳細設定] タブの [環境変数] をクリックします。

[環境変数] 画面が表示されます。

5. 環境変数 [TMP] の値に指定されたディレクトリーを確認します。

補足 「{環境変数 [TMP] に設定されているディレクトリー} ¥eXTool」が存在しない場合は自動的に作成されます。

4.1.2 ファイル名のルール

・ドキュメント管理サービス SDK 実行時の各種ファイルのファイル名は「{YYYYMMDD_hhmmss} _ {コマンド名} . {拡張子}」です。

・ドキュメント管理サービス SDK 実行時の検索条件記述ファイルのファイル名は「{YYYYMMDD_hhmmss} .search」です。

補足 検索条件記述ファイルは範囲検索が行われる場合のみ作成します。

・属性検索機能実行時に新規ブックに表示する結果ファイルのファイル名は「{YYYYMMDD_hhmmss} _ 検索結果.txt」です。

・ファイルオープン機能実行時に新規ブックに表示するファイルのファイル名は「{YYYYMMDD_hhmmss} _open.txt」です。

4.2 ログファイル

ログファイルは次のルールで作成されます。

- ・インストールディレクトリー（ext4_eXTool.xls と同じ場所）配下に作成されます。
- ・ファイル名は [eXTool.log] です。
- ・エラーが発生した場合だけログファイルを作成します。
- ・エラーが発生した日時、およびエラーメッセージを出力します。

■ ログファイル例

```
2021/03/21 09:52:52 指定されたディレクトリにファイルおよびフォルダが存在しません。  
2021/03/21 09:59:08 IFTKコマンド [drgetattr] の実行に失敗しました。[DREP_TOOLUTIL-  
41880003: ""で閉じられていません。]
```



5 エラーメッセージ

5.1 メッセージ一覧

eXToolで表示されるメッセージです。

No	出力先 (*1)	メッセージ	原因
50010001	D	処理対象ファイルがオープンされていません。処理を中止します。	eXTool以外のブックがオープンしていません。
50010002	D	処理対象ファイルがアクティブになっていません。処理を中止します。	eXToolのブックがアクティブになっています。
50010003	A	Tempディレクトリパスの取得に失敗しました。処理を中止します。	環境変数 [TMP] が設定されていません。
50010004	A	%1シート [%2欄] の設定が不正です。処理を中止します。	環境設定シートの設定が不正です。 (%1: シート名、%2: 項目名)
50010005	A	%1シート [%2行目] 読み込み中に予期せぬエラーが発生しました。[%3:%4] 処理を中止します。	環境設定シートの読み込み中にシステムエラーが発生しました。 (%1: シート名、%2: 行位置、%3: システムエラー番号、%4: システムエラーメッセージ)
50010006	A	TIFF保管ディレクトリ [Masterシート_DirPath: %] が存在しません。処理を中止します。	TIFF保管ディレクトリ [%] が存在しません。 (%: TIFF保管ディレクトリパス)
50010007	D	%1には%2列が必要です。(開始座標 [ROW: %3 COL: %4]) 処理を中止します。	機能実行に必要な列がシート上に存在しません。 (%1: 機能名、%2: 列名、%3: 開始座標行位置、%4: 開始座標列位置)
50010008	A	%シートに有効なデータが存在しません。処理を中止します。	キャビネットシート [%] に有効な設定行が存在しません。 (%: シート名)
50010009	D	ローカルディスクに対して%は実行できません。	選択された機能はローカルディスクに対して実行できません。 (%: 機能名)
50010010	A	%1シート [%2行目] 更新中に予期せぬエラーが発生しました。[%3:%4] 処理を中止します。	環境設定シートの更新中にシステムエラーが発生しました。 (%1: シート名、%2: 行位置、%3: システムエラー番号、%4: システムエラーメッセージ)
50010011	A	CSVに指示されたキーが存在しません。(開始座標 [ROW: %1 COL: %2]) 処理を中止します。	キー属性に指定した属性の列がシート上に存在しません。 (%1: 開始座標行位置、%2: 開始座標列位置)
50010012	D	%1はサービス [%2] では動作しません。	選択されたサービスでは該当機能が実行できません。 (%1: 機能名、%2: サービス名)
50010013	D	%1には%2列 (登録name属性に使用) が必要です。(開始座標 [ROW: %3 COL: %4]) 処理を中止します。	バッチ登録機能実行に必要なname作成属性列がシート上に存在しません。 (%1: 機能名、%2: 列名、%3: 開始座標行位置、%4: 開始座標列位置)
50010014	A	検索キーが入力されていない行が存在します。(開始座標 [ROW: %1 COL: %2]) 処理を中止します。	キー属性が1つも入力されていない行が存在します。 (%1: 開始座標行位置、%2: 開始座標列位置)
50010015	A	アトム名の前後にスペースが含まれています。[%]	シート上の属性名が不正です。 (%1: 属性名)

No	出力先 (*1)	メッセージ	原因
50010016	A	フィルターがかけられた状態で行選択はできません。	シートにオートフィルターが使用されています。
50010017	A	Masterシートに定義されていないアトム名が使用されています。[%1シート:%2]	キャビネットシートに未定義の属性名 (Masterシート [AtomTable] に定義されていないもの) が設定されています。 (%1: シート名、%2: 属性名)
50010018	D	該当データが1件も存在しません。	ドキュメント管理サービス上に対象データが1件も存在しません。
50010019	A	IFTKコマンド [%1] の実行に失敗しました。[%2]	ドキュメント管理サービスSDKの実行に失敗しました。 (%1: コマンド名、%2: ドキュメント管理サービスエラーメッセージ)
50010020	A	ドロワー [%1] がキャビネット [%2] に存在しません。	指定キャビネットに指定ドロワーが存在しません。 (%1: DrawerName、%2: CabinetId)
50010021	A	ローカルディスク [%] が存在しません。	データ転記・移動機能実行時、コピー先のローカルディスクが存在しません。
50010022	A	ファイル<%>を保存できませんでした。	処理対象ブック [%] の保存に失敗しました。
50010023	A	ディレクトリ<%>が存在しません。	ディレクトリー [%] が存在しません。
50010024	D	ハイパーリンクしたファイルは、<%>として保存しました。	処理対象ブック [%] の保存に成功しました。
50010025	A	コンピュータ名の取得に失敗しました。	コンピュータ名の取得に失敗しました。
50010026	A	%列が重複しています。\$処理を中止します。	属性列重複しています。
50010027	A	予期せぬエラーが発生しました。 %-% [%:%]	システムエラーが発生しました。 (%1: モジュール名、%2: 関数名、%3: システムエラー番号、%4: システムエラーメッセージ)
50010028	D	%には%列 (版管理属性として使用) が必要です。(開始座標 [ROW: % COL: %]) 処理を中止します。	版管理開始機能実行に必要な版管理属性列がシート上に存在しません。 (%1: 機能名、%2: 列名、%3: 開始座標行位置、%4: 開始座標列位置)
50010029	A	正常データ移動ディレクトリ [Masterシート_SaveDirPath: %] が存在しません。処理を中止します。	バッチ登録正常データ保管ディレクトリー [%] が存在しません。 (%: 正常データ保管ディレクトリーパス)
50010030	A	フォルダ [%] が複数存在します。	フォルダ [%] が複数存在するため処理が実行できません。
50010031	D	%1では%2列を指定できません。(開始座標 [ROW: %3 COL: %4]) 処理を中止します。	シート上に指定できない属性列が存在します。 (%1: 機能名、%2: 列名、%3: 開始座標行位置、%4: 開始座標列位置)
50010032	A	検索キーが入力されていません。	シート上に検索キーが1つも入力されていません。
50010033	A	%1を検索しましたが、対象ファイルが1つも見つかりませんでした。	リスト作成時と違うフォルダを検索しています。

No	出力先 (*1)	メッセージ	原因
50010034	A	参照バージョン [最新] で、Search検索（あいまい検索）は、出来ません。	リファレンス作成時に参照バージョン [最新] で、Search検索（あいまい検索）は、実行できません。
50010035	D	版管理属性 [Masterシート _RevisionAtom] が指定されていません。処理を中止します。	入庫チェック機能・出図チェック機能実行に必要な版管理属性が指定されていません。
50010036	D	targetDrepld列とtargetObjectId列は同時に指定できません。(開始座標 [ROW : %1 COL : %2]) 処理を中止します。	シート上にtargetDrepld列とtargetObjectId列が存在します。 (%1 : 開始座標行位置、%2 : 開始座標列位置)

* 1 : 出力先は (D : ダイアログボックス / L : ログファイル / A : 両方) です。



6 インターフェイス

6.1 マクロインターフェース一覧

eXToolでのマクロインターフェースです。

表 :マクロインターフェース

処理名		マクロ名
属性登録	ユニークチェック	CheckMainSE_MIF
	登録	SetMain_MIF
	版管理開始	ManageMain_MIF
属性検索		GetMain_MIF
ファイルを開く		OpenMain_MIF
ハイパーリンクの作成		ChangeHyperLinkMain_MIF
ハイパーリンクの解除		RemoveHyperLinkMain_MIF
リストの作成		CreateListMain_MIF
リファレンス作成	ユニークチェック	CheckMainRE_MIF
	作成	PutMain_MIF
バッチ登録		BatRegMain_MIF
データの転記・移動	ユニークチェック	CheckMainCO_MIF
	転記・移動	CopyMain_MIF
チェック	ユニークチェック	CheckMainCR_MIF
	入庫チェック	CheckRevMainP_MIF
	出庫チェック	CheckRevMainR_MIF
英名⇄和名変換		ConvHeaderMain_MIF

6.2 マクロ設定方法

eXToolの機能をExcelのリボンまたはクイックアクセスツールバーに登録する方法について説明します。

eXToolを起動したあとで、ExcelのリボンまたはクイックアクセスツールバーにeXToolの機能を登録できます。

[\[6.2.1 リボンのグループに登録する\] \(P.75\)](#)

[\[6.2.2 クイックアクセスツールバーに登録する\] \(P.76\)](#)

6.2.1 リボンのグループに登録する

次のExcelを使用しているときに登録できます。

- ・ Excel 2016、Excel 2019、または Excel for Office 365

1. eXTool を起動し、リボンメニューから任意の機能を選択します。

参照 リボンメニューから機能を選択する方法については、[\[3.1 eXTool の起動\] \(P.36\)](#) を参照してください。

2. Excel の [ファイル] タブから [オプション] を選択します。

[Excel のオプション] 画面が表示されます。

3. [リボンのユーザー設定] を選択します。

4. [コマンドの選択] で [マクロ] を選択し、登録する操作のマクロを選択します。

5. [リボンのユーザー設定] で、[メイン タブ] を選択します。

6. [新しいタブ (ユーザー設定)] で、マクロを追加するグループを選択します。たとえば、[新しいグループ (ユーザー設定)] を選択します。

補足 使用する環境に合わせて、[新しいタブ] または [新しいグループ] を作成し、作成したタブまたはグループを選択します。

7. [追加] をクリックします。

8. [OK] をクリックします。

[Excel のオプション] 画面が閉じます。

9. [新しいタブ] を選択し、手順 [7](#) で指定したマクロが、グループに追加されていることを確認します。

6.2.2 クイックアクセスツールバーに登録する

1. eXTool を起動し、リボンメニューから機能を選択します。

参照 リボンメニューから機能を選択する方法については、[\[3.1 eXTool の起動\] \(P.36\)](#) を参照してください。

2. [ファイル] > [オプション] を選択します。
[Excel のオプション] 画面が表示されます。
3. [クイック アクセス ツール バー] を選択します。
4. [コマンドの選択] で [マクロ] を選択し、登録する操作のマクロを選択します。
5. [クイック アクセス ツール バーのユーザー設定] で、必ず [すべてのドキュメントに適用 (既定)] を選択します。
6. [追加] をクリックします。
7. [OK] をクリックします。
[Excel のオプション] 画面が閉じます。
[新しいタブ] を選択し、手順 [6](#) で指定したマクロが、クイックアクセスツールバーに追加されていることを確認します。

補足 手順 [5](#) で、[クイックアクセスツールバーをリボンの下に表示する] にチェックマークを付けた場合は、リボンの下にクイックアクセスツールバーが表示されます。



7 機能上の制限事項

7.1 eXTool に関する制限事項

eXTool制限事項について説明します。

- ・ Windows にサインインするユーザーごとに eXTool を利用する場合は、Excel の仕様によりユーザーごとのセットアップが必要です。
- ・ eXTool を起動するユーザーの Windows サインインユーザー名に、全角スペースまたは次の文字を含めないでください。全角スペースまたは次の文字が含まれているとコマンドを実行したときにエラーになります。
 ヲ (全称記号)、ー (ダッシュ)、一 (漢数字の 1)、稀、紀、儀、言、最、部、需、退、刀、謀、堀、耀、梔、愀、戀、攀、簀、蜀、B (ギリシャ字のベータ)、T (ギリシャ字のタウ)、逢、栢、漢、索、嬢、琢、夢、尢、崢、榲、槁、癰、滕、范、龍、蠱、錢、鬢
- ・ アクティブシートだけが処理対象です。
- ・ 処理実行中にアクティブブック・シートを変更した場合の動作は保証されていません。
- ・ アクティブシートにシートの保護、ブックの保護をした場合は、正常に動作しません。
- ・ 入力された属性値のタイプチェックは行いません。
- ・ 属性値として入力できる文字コードは、ドキュメント管理サービス標準機能に準じます。
- ・ 入力された属性に Excel のエラー値 (#NULL!,#DIV/0,#VALUE!,#REF!,#NAME?,#NUM!,#N/A) が含まれる場合は正常に動作しません。
- ・ eXTool で、キー属性の値として「* (アスタリスク)」は使用できません。
- ・ eXTool で扱えるファイル名は 255 バイトまでです。
- ・ エディション管理されていないキャビネットに対して、キー種別 [Primary] で操作を行った場合は正常に動作しません。
- ・ ドキュメントスペース用キャビネット以外を指定した場合は、正常に動作しません。
- ・ eXTool で扱えるテキストファイルの文字セットは Shift_JIS のみです。
- ・ Master シートの [dRepUser] に設定するユーザーとパスワードには「/ (スラッシュ)」を使用できません。
- ・ Cabinet シートに定義する機能名に重複する名前を記載した場合、正常に動作しません。
- ・ 「ワークフロー」からドキュメントスペースに文章登録をする場合、属性値に改行を含ませることが可能です。しかし、属性値に改行コードが含まれていると属性検索の結果が正しく表示されません。
- ・ クラス機能については、新規登録およびリファレンス作成だけ処理が可能です。
- ・ 設定シートを編集する場合、Windows にサインインするユーザーには、eXTool のインストール先フォルダーの変更権限が必要です。